

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月20日
【事業年度】	第57期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	NECフィールドディング株式会社
【英訳名】	NEC Fielding,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役執行役員社長 伊藤 行雄
【本店の所在の場所】	東京都港区三田一丁目4番28号
【電話番号】	03-3457-7101(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員兼経理部長 松倉 博之
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田一丁目4番28号
【電話番号】	03-3457-7101(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員兼経理部長 松倉 博之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第53期 平成21年3月	第54期 平成22年3月	第55期 平成23年3月	第56期 平成24年3月	第57期 平成25年3月
売上高 (百万円)	211,086	190,895	189,107	183,481	185,884
経常利益 (百万円)	10,083	10,111	8,523	9,422	6,616
当期純利益 (百万円)	5,275	4,872	4,722	4,012	3,559
包括利益 (百万円)	-	-	4,705	4,023	3,607
純資産額 (百万円)	69,919	72,593	75,101	76,941	78,367
総資産額 (百万円)	131,912	132,006	132,790	136,277	138,303
1株当たり純資産額 (円)	1,281.60	1,330.73	1,377.01	1,410.76	1,436.89
1株当たり当期純利益金額 (円)	96.72	89.34	86.58	73.57	65.26
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.99	54.98	56.56	56.46	56.66
自己資本利益率 (%)	7.70	6.84	6.40	5.28	4.58
株価収益率 (倍)	10.22	14.17	11.10	14.63	18.27
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	9,984	6,565	8,388	10,161	9,568
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,823	3,274	3,503	4,674	1,969
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,622	2,421	2,494	2,548	2,612
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	23,346	24,219	26,599	29,536	34,535
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	6,465 (2,886)	6,362 (2,645)	6,237 (2,425)	6,170 (2,362)	6,125 (2,499)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は従来、物品販売のうち、顧客への納品を運送業者に委託する場合は、運送業者に物品を引渡した日をもって売上高を認識する出荷引渡基準を採用していましたが、当連結会計年度より、顧客の検収日をもって売上高を認識する検収基準に変更しました。

これにより、前連結会計年度（第56期）については、当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

なお、第55期以前に係る累積的影響額については、第56期の期首の純資産に反映させております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第53期 平成21年3月	第54期 平成22年3月	第55期 平成23年3月	第56期 平成24年3月	第57期 平成25年3月
売上高 (百万円)	198,723	187,889	186,408	180,739	182,680
経常利益 (百万円)	9,658	10,083	8,573	9,191	6,352
当期純利益 (百万円)	5,180	4,788	4,820	3,832	3,201
資本金 (百万円)	9,670	9,670	9,670	9,670	9,670
発行済株式総数 (千株)	54,540	54,540	54,540	54,540	54,540
純資産額 (百万円)	69,283	71,875	74,508	76,169	77,224
総資産額 (百万円)	128,029	129,972	130,815	134,142	135,609
1株当たり純資産額 (円)	1,270.33	1,317.87	1,366.14	1,396.61	1,415.94
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間 配当額) (円)	40.00 (20.00)	40.00 (20.00)	40.00 (20.00)	40.00 (20.00)	40.00 (20.00)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	94.98	87.80	88.39	70.27	58.70
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	54.12	55.30	56.96	56.78	56.95
自己資本利益率 (%)	7.63	6.78	6.59	5.09	4.17
株価収益率 (倍)	10.40	14.42	10.87	15.32	20.31
配当性向 (%)	42.11	45.56	45.26	56.78	68.15
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	5,547 (2,599)	5,751 (2,453)	5,576 (2,224)	5,474 (2,077)	5,412 (2,229)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は従来、物品販売のうち、顧客への納品を運送業者に委託する場合は、運送業者に物品を引渡した日をもって売上高を認識する出荷引渡基準を採用していましたが、当事業年度より、顧客の検収日をもって売上高を認識する検収基準に変更しました。

これにより、前事業年度(第56期)については、当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

なお、第55期以前に係る累積的影響額については、第56期の期首の純資産に反映させております。

2【沿革】

年月	事項
昭和32年3月	日電不動産株式会社として資本金50万円で設立、損害保険の代理店業務を開始。
昭和33年2月	設計製図業務を開始。
昭和35年11月	社名を日本電気技術協力株式会社と改称。
昭和36年4月	無線伝送関係調整・検査及びマイクロ波装置の保守業務を開始。
昭和37年3月	電子計算機保守業務を開始。
昭和40年4月	データ通信・郵便自動化機器の保守及び衛星通信装置の調整・検査業務を開始。
昭和41年12月	社名を「日本電気エンジニアリング株式会社」と改称。
昭和41年12月	「日電興産株式会社」を分離設立し、保険代理業務及び不動産業務をこれに譲渡。
昭和46年11月	海外業務を開始。
昭和47年2月	オペレーション業務を開始。
昭和48年1月	社名を「日本電気フィールドサービス株式会社」と改称。
昭和48年12月	コンピュータ用品の販売を開始。
昭和49年10月	郵便自動化機器の保守業務を「日本電気郵便エンジニアリング株式会社」に譲渡。
昭和50年6月	「日本電気エンジニアリング株式会社」を分離設立し、通信機器、電子機器の設計、検査、調整等の業務をこれに譲渡。
昭和50年11月	ソフトウェアメンテナンス業務を開始。
昭和55年9月	「株式会社航空システムサービス」を設立。(当社全額出資)
昭和56年12月	一般建設業(電気通信工事業、機械器具設置工業)の許可取得。〔東京都知事許可 般56第62282号〕
昭和57年4月	個々のITシステムを関連させるネットワーク事業開始。
昭和61年12月	特定建設業(電気工事業)の許可取得。〔東京都知事許可 特61第62282号〕
平成3年10月	ソリューションサービス事業を開始。
平成6年6月	特定建設業(電気工事業)一般建設業(電気通信工事、管工事)の建設大臣許可を東京都知事許可より変更取得。〔建設大臣許可 特・般6 第15755号〕
平成8年3月	「株式会社日本オンコロジーシステム」を設立。(当社51%と米国法人パリアン社49%出資)
平成12年4月	「NECカスタマサービス株式会社」と合併し、社名を「NECフィールドディング株式会社」と改称。
平成12年5月	「日本電気エンジニアリング株式会社」及び「株式会社航空システムサービス」の保有全株式を売却。
平成14年1月	「エヌデック株式会社」の全株式を取得。
平成14年9月	東京証券取引所市場第一部に株式を上場。
平成15年7月	「株式会社日本オンコロジーシステム」の保有全株式を売却。
平成16年6月	国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加。
平成17年3月	「フィールドディングサポートクルー株式会社(現NECフィールドディングサポートクルー株式会社)」を設立。(当社全額出資)
平成17年3月	「NEC飛鼎克信息技术服務(北京)有限公司」を設立。(平成18年12月、当社全額出資)
平成18年1月	一般建設業(内装仕上工事業)の許可取得。〔国土交通大臣許可 般17第15755号〕
平成19年6月	「フィールドディングシステムテクノロジー株式会社(現NECフィールドディングシステムテクノロジー株式会社)」を設立。(当社全額出資)
平成19年7月	「NECインフロンティアシステムサービス株式会社」の株式の66.66%を取得。
平成21年4月	「NECインフロンティアシステムサービス株式会社」を吸収合併。

### 3【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、当社の親会社である日本電気株式会社及び当社の連結子会社であるエヌデック株式会社、NECフィールドディングサポートクルー株式会社、NECフィールドディングシステムテクノロジー株式会社、NEC飛鼎克信息技术服務（北京）有限公司により構成されております。

当社グループ（当社及び連結子会社）の事業活動は、主にお客さまの現場で稼働しているITシステム（注1）の安定稼働、最適で快適な活用を目的とした「ITサポートサービス」（注2）を提供することであり、次の2つの事業を展開しております。

#### （プロアクティブ・メンテナンス事業）

##### 保守サービス

ITシステムに関する保守・修理サービスを提供します。

#### （フィールドディング・ソリューション事業）

##### システム展開サービス

ITシステムの導入支援、セットアップ、移設、増設、撤去作業並びにネットワークシステム構築、及び電源・空調・耐震設備・セキュリティシステム等の設置サービスを提供します。

##### サプライサービス

コンピュータ用品、OA機器、ソフトウェア等を販売します。

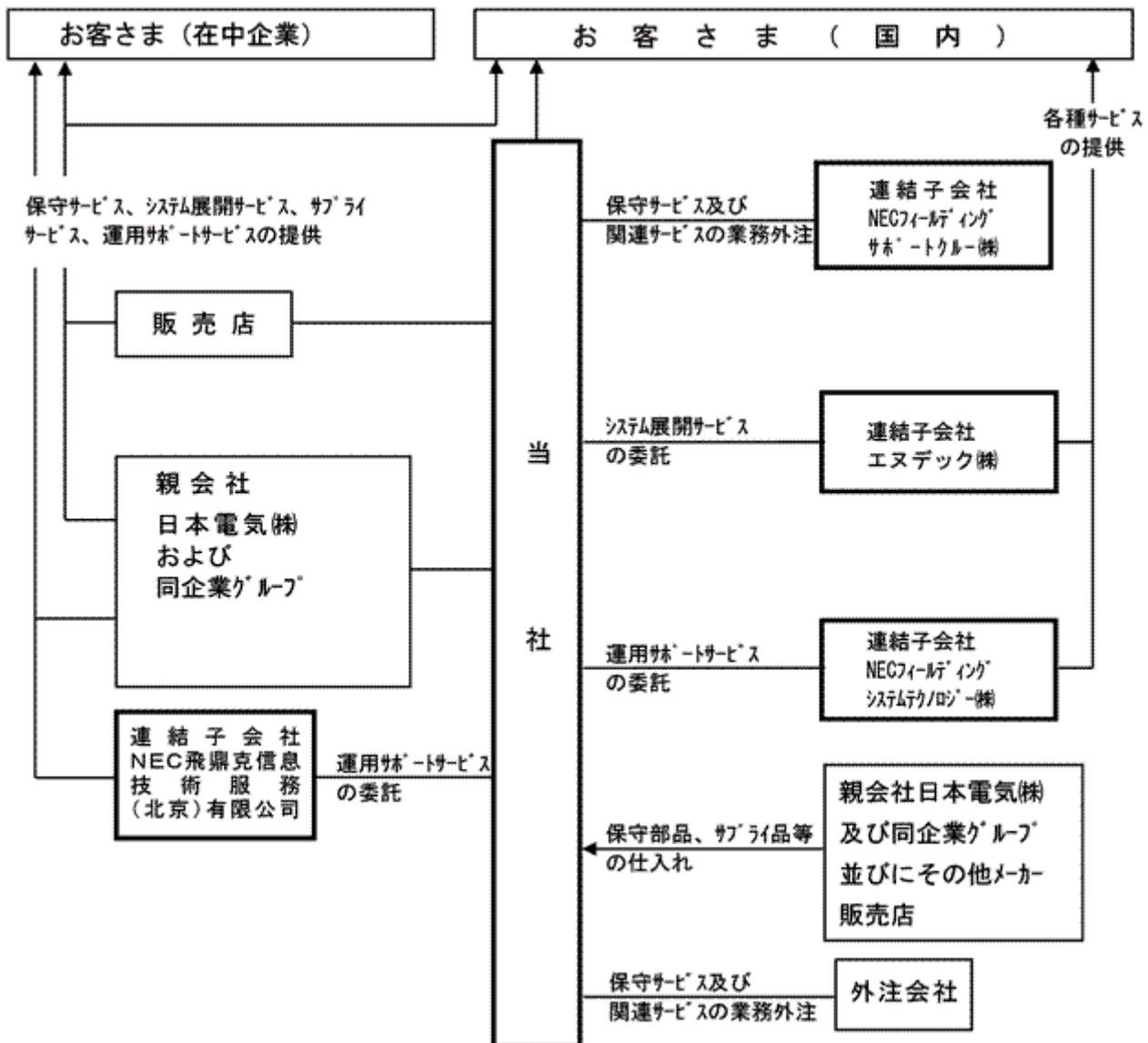
##### 運用サポートサービス

ITシステムの運用・管理代行等のサポートサービスを提供します。

（注1）ITシステムとは、コンピュータ機器（ハードウェア/ソフトウェア）とネットワークを融合し、情報を適切に処理（保存・管理・交換）するための仕組み全般のことを指します。

（注2）ITサポートサービスとは、お客さまがITシステムを快適に活用するために、企画・設計から導入・構築、運用・保守に至るすべてのフェーズにおいて各種のサポートとサービスを提供することです。

なお、事業の系統図は次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

平成25年3月31日現在

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業内容	議決権の所有 割合又は被所有 割合 (%)	関係内容
(親会社) 日本電気株式会社 (注)1	東京都港区	397,199	ITソリューション 事業、キャリアネット ワーク事業、社会 インフラ事業、パー ソナルソリューション 事業	被所有 67.11(29.88) (注)2	・機器の保守・修理及び設 置等を受託 ・保守部品、サプライ品(消 耗品)等の仕入 ・役員の兼任あり (当該会社の従業員が当 社非常勤役員を兼任) 兼任役員3名
(連結子会社) エヌデック株式会社	東京都荒川区	90	ITシステム及び電 源設備の設計、構築、 設置、展開、工事、保 守、運用	100	・システム展開サービスの 施工を委託 ・役員の兼任あり (当該会社の非常勤役員 を当社の役員及び従業員 が兼任) 兼任役員5名
(連結子会社) NECフィールドイ ングサポートクルー 株式会社	東京都港区	50	ITシステムの保守 と関連業務及びソ リューション業務並 びに事務支援業務の 受託	100	・ITシステムに係る保守 関連業務等を委託 ・役員の兼任あり (当該会社の非常勤役員 を当社の役員及び従業員 が兼任) 兼任役員3名
(連結子会社) NECフィールドイ ングシステムテクノ ロジー株式会社	東京都港区	90	ITシステムの利用 に関する客先駐在型 を主とした運用サ ポートサービスの提 供	100	・運用サポート業務等を委 託 ・役員の兼任あり (当該会社の非常勤役員 を当社の役員及び従業員 が兼任) 兼任役員4名
(連結子会社) NEC飛鼎克信息技 術服務(北京)有限 公司	中国北京市	万米ドル 338.1	ITシステム及び関 連する付帯設備の保 守、設置、コンサル ティング、訓練、技術 開発、サービス、設 計、工事、販売	100	・運用サポート(コールセ ンター)業務を委託 ・役員の兼任あり (当社の役員及び従業員 が兼任) 兼任役員5名 (非常勤5名)

(注)1. 有価証券報告書を提出しております。

2. 「議決権の所有割合又は被所有割合」欄の(29.88%)は、退職給付信託契約上、日本電気株式会社が日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口)に対し、当該株式に属する議決権の行使に関する指図権を有する所有割合で、67.11%の内数を示したものであります。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
保守サービス システム展開サービス サブライサービス 運用サポートサービス	5,691 (2,485)
全社(共通)	434 (14)
合計	6,125 (2,499)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含むほか、常用パートを含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー及び人材会社からの派遣社員で、常用パートは除いております。)は( )内に年間平均雇用人員を外数で記載しております。なお、当該臨時雇用者数には、当社グループ内の派遣社員を含んでおります。
2. 当社グループは、セグメントごとの経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数のセグメントに従事しております。
3. 全社(共通)には、特定の事業に区分できない管理部門に所属している従業員数を記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
5,412 (2,229)	42.8	21.4	6,654,551

セグメントの名称	従業員数(人)
保守サービス システム展開サービス サブライサービス 運用サポートサービス	4,978 (2,215)
全社(共通)	434 (14)
合計	5,412 (2,229)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数(派遣社員)は( )内に年間平均雇用人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 臨時雇用者の平均年齢、平均勤続年数、平均年間給与については把握しておりませんので、当社従業員のみで算定しております。
4. 当社は、セグメントごとの経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数のセグメントに従事しております。
5. 全社(共通)には、特定の事業に区分できない管理部門に所属している従業員数を記載しております。

### (3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会 NECグループ労働組合連合会 NECフィールドディング労働組合と称し、当社本社に事務所が置かれ、平成25年3月31日現在における組合員数は、3,977人であります。

なお、労使関係は安定しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

平成25年3月期の連結業績（売上高・営業利益） （金額単位：百万円）

	上半期		下半期		通期	
売上高	88,641	0.2%	97,242	2.4%	185,884	1.3%
営業利益	3,612	0.1%	4,476	18.8%	8,088	11.3%

（売上高、営業利益におけるパーセント表示は、対前期増減率）

当連結会計年度におけるわが国経済は、世界経済の減速を背景に、輸出・生産等が下降傾向となり、景気の不透明感が高まったものの、政権交代以降、円安・株高が進行し、景気回復に向けた動きが強まってきました。

当社グループの主たる事業領域であるITサポートサービス市場においては、業務効率化やITコストの削減を目的としたクラウド、仮想化、スマートデバイス関連サービスに加え、データセンター等を利用したBC/DR（事業継続、災害対策）サービスの分野においてニーズが高まりました。しかしながら、全体的には不透明な経済環境を背景としたIT投資の抑制が継続しています。

このような環境の中、当社グループはCS（Customer Satisfaction：お客さま満足）とCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）を経営の基軸とした事業運営を積極的に実践するとともに、サポートサービス事業の担い手である「ひと」を財産と捉え「人材」に対する投資・育成を充実し、堅実な事業遂行を図り、さらに継続した費用構造改革を推進することで安定的な利益の創出を目指して活動してまいりました。

当連結会計年度における売上高は、1,858億84百万円（前期比1.3%増）となり、5期ぶりに増収へ転換いたしました。これは、主に保守サービスでの自主契約促進活動による契約保守や販売パートナー連携等での増収に加え、運用サポートサービスにおける自治体/医療案件の獲得の増加やシステム展開サービスで注力しているクラウド/仮想化、環境、セキュリティ/ネットワークの増収、さらにサブライサービスでのインターネットショップ「い〜るでいんぐ」等で増収したことによるものです。

営業利益は、80億88百万円（前期比11.3%減）となりました。これは、保守サービスの減益と、新基幹システムの導入に伴う減価償却費等が増加したことによるものです。

経常利益は、66億16百万円（前期比29.8%減）となりました。これは、新基幹システムの導入による初期費用の発生により営業外費用が増加したことによるものです。

当期純利益は、35億59百万円（前期比11.3%減）となりました。これは、主に経常利益が減少したことによるものです。

なお、当社は当連結会計年度より売上計上基準を変更したため、前連結会計年度の数値は、遡及処理後の数値によっております。詳細は、「会計方針の変更」をご覧ください。

セグメント別の業績については次のとおりであります。

#### [保守サービス]

（金額単位：百万円）

	25年3月期 保守サービス					
	上半期		下半期		通期	
売上高	45,958	2.0%	45,508	2.9%	91,467	2.5%
営業利益	7,887	0.8%	7,883	9.9%	15,771	4.8%

（売上高、営業利益におけるパーセント表示は、対前期増減率）

（注）営業利益は、当社の総務部門・経理部門等の一般管理部門に係る費用控除前の数値です。

売上高は、注力している自主契約促進活動による契約保守や販売パートナー連携等で増収となりましたが、未契約保守等で減収したことにより、914億67百万円（前期比2.5%減）となりました。

営業損益は、継続して取り組んでいる生産革新活動を中心に保守部材費および機材関連費用の低減効果はあったものの、減収の影響により、157億71百万円の利益（前期比4.8%減）となりました。

[システム展開サービス]

(金額単位：百万円)

	25年3月期 システム展開サービス					
	上半期		下半期		通期	
売上高	13,451	4.6%	17,165	5.8%	30,616	5.3%
営業利益又は 営業損失( )	542	-	374	-	168	-

(売上高におけるパーセント表示は、対前期増減率)

(注) 営業利益又は営業損失は、当社の総務部門・経理部門等の一般管理部門に係る費用控除前の数値です。

売上高は、工事案件の減少に伴う減収はあったものの、クラウド/仮想化、環境、セキュリティ/ネットワークの全ての注力領域で増収したことに加え、第4四半期に増収のペースが加速したことにより、306億16百万円(前期比5.3%増)となりました。

営業損益は、増収による増益と営業活動の効率化等で利益率が改善したことにより、前期比14億97百万円改善の1億68百万円の損失となりました。

[サブライサービス]

(金額単位：百万円)

	25年3月期 サブライサービス					
	上半期		下半期		通期	
売上高	19,495	1.3%	25,151	13.7%	44,646	7.9%
営業利益	175	43.7%	151	54.0%	327	49.0%

(売上高、営業利益におけるパーセント表示は、対前期増減率)

(注) 営業利益は、当社の総務部門・経理部門等の一般管理部門に係る費用控除前の数値です。

売上高は、前期に獲得した大型案件の反動による減収はあったものの、インターネットショップ「い〜るでいんぐ」等の注力領域で増収したことに加え、第4四半期に増収のペースが加速したことにより、446億46百万円(前期比7.9%増)となりました。

営業損益は、利益率が悪化したことにより、3億27百万円の利益(前期比49.0%減)となりました。

[運用サポートサービス]

(金額単位：百万円)

	25年3月期 運用サポートサービス					
	上半期		下半期		通期	
売上高	9,735	2.7%	9,417	3.7%	19,152	0.5%
営業利益	939	18.5%	712	10.2%	1,651	4.1%

(売上高、営業利益におけるパーセント表示は、対前期増減率)

(注) 営業利益は、当社の総務部門・経理部門等の一般管理部門に係る費用控除前の数値です。

売上高は、注力している運用支援サービスやヘルプデスクサービス等で、自治体/医療での案件獲得が進み増収となったものの、メディアサービスにおいて前期に獲得した特需案件の反動で減収したことにより、191億52百万円(前期比0.5%減)となりました。

営業損益は、原価低減活動の効果で利益率が改善したことにより、16億51百万円の利益(前期比4.1%増)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は345億35百万円となり、前連結会計年度末に比べて49億98百万円増加しました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の営業活動により増加した資金は95億68百万円（前期比5億93百万円減）となりました。主な資金増加の内容は、税金等調整前当期純利益66億16百万円や減価償却費27億27百万円等で、主な資金減少の内容は、仕入債務の減少13億11百万円や法人税等の支払い137億56百万円等です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の投資活動により減少した資金は19億69百万円（前期比27億5百万円減）となりました。主な資金減少の内容は、新基幹システムの開発等に伴う無形固定資産の取得による支出16億68百万円です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の財務活動により減少した資金は26億12百万円（前期比64百万円増）となりました。主な資金減少の内容は、配当金の支払い121億81百万円です。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当社グループの事業内容は、主としてITシステム等の設置、メンテナンス、運用並びにシステムに関連する付属品・周辺機器等の販売であり、事業全体に占める生産活動は僅かであるため、生産実績については記載しておりません。

### (2) 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	受注残高(百万円)
保守サービス	101,099	28,337
システム展開サービス	31,668	3,204
サブライサービス	44,884	2,686
運用サポートサービス	20,167	5,005
合計	197,819	39,232

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当連結会計年度において受注高の計上制度を一部変更しております。

なお、当該制度変更について遡及適用を行うことが困難なため、前連結会計年度との比較は行っておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	前年同期比(%)
保守サービス(百万円)	91,467	97.5
システム展開サービス(百万円)	30,616	105.3
サブライサービス(百万円)	44,646	107.9
運用サポートサービス(百万円)	19,152	99.5
合計	185,884	101.3

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 当連結会計年度より売上計上基準を変更しており、前年同期比については当該変更を遡及適用した後の前連結会計年度の数値との比較によっております。

3. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
日本電気株式会社	101,405	55.3	101,433	54.6

4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

5. 当連結会計年度より売上計上基準を変更しており、前連結会計年度の日本電気株式会社に対する売上高については、当該変更を遡及適用した後の数値となっております。

### 3【対処すべき課題】

当社は、持続的に成長し、健全な利益を創出して行くために、「成長領域へのシフトと事業ドメインの拡大」「企業体質の抜本的な改善」を実行してまいります。

まず、「成長領域へのシフトと事業ドメインの拡大」においては、既に取り組み始めている「垂直型事業拡大」「SMB事業拡大」「クラウド事業拡大」「グローバル事業拡大」に加え、アセットを活用した「新規事業の開拓」を進めてまいります。

「垂直型事業拡大」については、ITシステム運用の効率化に向け、ワンストップでのサポートサービス提供ニーズが拡大する中で、従来より取り組んできたオンサイトでのLCM（注1）サポートサービスをベースに、コールセンターを起点としてアプリケーション運用、業務運用代行までサービス提供領域の拡大を図ってまいります。さらに、医療領域で先行している業種別サービスモデルの他業種展開を加速させ、事業拡大を図ってまいります。

「SMB事業拡大」については、中堅・中小企業のITへの投資意欲が回復し、中長期的に当該市場の拡大が加速すると見込まれている中で、お客さま接点を活かしたニーズの掘り起こしやSMB対応のマーケティング専任部隊を設置・強化することにより魅力的な商材を拡充し、また、お客さまに対するサービス提案力を強化し、NECと連携した顧客深耕や全国拠点網を活かした自主開拓を進めることで、事業拡大を図ってまいります。

「クラウド事業拡大」については、企業のクラウド利用の拡大でITシステム環境やワークスタイルが多様化・変革する中で、お客さまニーズに対応した仮想化やクライアントソリューション等のプラットフォーム構築サービスやデータセンターを活用したASPサービスの提供力を強化するとともに、強みであるオンサイト対応とリモートアクセスを組み合わせた運用サービスを提供することで、お客さまシステムのフルサポートを実現し、事業拡大を図ってまいります。

「グローバル事業拡大」については、中国でのJOC（注2）対応を中心とした事業をベースとして、地域別の環境に適合したサービス品質でのビジネス展開を、今後市場拡大が予測されるAPAC（注3）および欧米や他地域へ順次展開するとともに、保守サービス中心の事業から、ソリューション、運用サービスへとサービス提供範囲を拡大してまいります。

「新規事業の開拓」については、当社だけでなくNECグループ全体のアセットを活用し、センサー、スマートエネルギー等の新技術を取り入れた新しいサービスの提供や、IT機器以外の製品に対する保守サービスの開発等を進め、当社にとって新たな事業ドメインを創出してまいります。

次に、「企業体質の抜本的な改善」については、物流倉庫業務から始まり、間接業務に対象領域を広げてきた「生産革新活動」の事業現場への展開や、新コンタクトセンター構想による受付機能の標準化および効率化の推進等、全社を挙げて業務プロセス改革を実践することで、生産性の向上を図ってまいります。

さらに、これらの施策の実行のために、事業の基盤である「人財」を育成してまいります。また、経営の基軸であるCS、CSRについても継続して強化を図ってまいります。

当社グループはこれらの戦略の実行により、企業価値の向上を目指してまいります。

注1 Life Cycle Management

注2 Japan Originated Company

注3 Asia Pacific

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1)セキュリティ管理について

当社グループが営むITサポートサービス事業においては、当該業務の性格上、多数のお客さま情報を保有しております。当社グループでは、情報の取扱いについて各種の規程を整備するとともに、個人情報保護活動としてプライバシーマークを取得し、地域密着型のアウトソーシングサービスを提供するiSolution拠点およびNECと共同で運営するデータセンター、並びにヘルプデスク業務において、セキュリティ管理に関する情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の国際標準規格「ISO/IEC 27001：2005」認証を取得しております。また全従業員を対象として「お客さま対応作業における遵守事項」に関する教育を徹底して実施し、当社グループ内部からの情報漏洩を防ぐ施策を講じております。このような対策にもかかわらず当社グループからの情報漏洩が万が一にも発生した場合には、当社が損害賠償責任を負う可能性があり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

##### (2)従業員等による不法行為と違法行為について

当社グループは、あらゆる企業活動の場面において関係法令や規定を遵守することを基本姿勢とした「NECフィールドディンググループ行動規範」の徹底や、教育の充実などにより従業員等の倫理向上に努めております。しかし、これにより従業員等による業務上の不法行為や違法行為の発生の可能性が完全に無くなるものではありません。従業員等による不法行為や違法行為が発生した場合、第三者に対する損害賠償責任、営業停止や取引停止などの取り扱いを受けることによる事業遂行への影響で、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

##### (3)お客さま満足度の維持および向上について

当社グループがお客さまに提供する価値は、ITサービス領域においてお客さまのITシステムの快適運用と最適活用を実現することです。即ち当社グループの価値は、当社グループの提供するサービスがお客さまの期待以上であった時に、当社グループに対する信用や信頼度の向上といった無形の財産として形成されます。当社グループが属するITサービス業界は技術革新が激しいことから、業務を受託している対象機器の新規追加、仕様変更又は新サービスの開始等により、当社グループが保有する技術、技能が陳腐化する恐れがあります。当社グループは、この技術革新のスピードに対処すべく、常に新しい技術、技能を組織的に修得するとともに、お客さまからの要請、要望等をスピーディに掴み、その内容により全社レベルでのコールエスカレーションが行われる仕組みを構築し、適切かつ迅速なお客さま対応ができる体制を整えております。しかしながら、上記のような対策を講じているにもかかわらず、当社グループの対応に不備や不足、作業ミスなどがあった場合には、お客さま及び日本電気株式会社企業グループ等の業務委託者からクレームを受けたり、業務委託等に関する契約が解除される等により、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

##### (4)事業環境の変化について

当社グループの主たる事業領域であるITサポートサービス市場においては、積極的なIT投資が手控えられる傾向は継続するものの、企業業績の改善を背景として、業務効率化やITコスト削減を目的としたクラウド、仮想化、スマートデバイス関連サービスおよびITアウトソーシングのニーズが拡大していくと予想されています。このような状況の中、プロアクティブ・メンテナンス事業での利益を確保し、フィールドディング・ソリューション事業で成長性を牽引するという当社の事業遂行モデルを一層強化していくために、既に取り組み始めている「垂直型事業拡大」「SMB事業拡大」「クラウド事業拡大」「グローバル事業拡大」に加え、アセットを活用した「新規事業開拓」を進めてまいります。しかし、クラウド化の進展等による保守対象機器の減少などが想定以上に進展した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。また、フィールドディング・ソリューション事業においてもプロアクティブ・メンテナンス事業と同様に事業領域を拡大してまいります。想定以上に景気動向による需要の減少や製品価格の下落が発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5)日本電気株式会社及びその企業グループの経営戦略との連携について

当社グループは、ITサポートサービス事業において、日本電気株式会社及びその企業グループ各社と連携のうえ事業活動を展開しております。

日本電気株式会社及びその企業グループは、成長に向けた事業構造の転換と収益構造の改革を目的に、NECグループとしての全体最適、制度・仕組みのシンプル化及びグローバルスタンダード化に向けた組織・制度の見直しを推進しております。このような動きのなかで、当社グループの役割分担及び位置づけが変更された場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6)人財の確保及び育成について

当社グループが、お客さまのニーズに的確に即応したITサポートサービス事業を遂行するためには、関連する技術・技能を有した多くの優秀な人財を確保育成する必要があります。そのために当社グループは、能力・成果主義を基軸とした人事政策を採用しており、技術系大卒者を中心に定期採用を実施するとともに、技術者一人当たり年間22日間以上に及ぶ技術研修教育を実施することにより人財の確保、育成に努めております。しかしながら、上記のような施策を実施しているにもかかわらず、従業員教育実施時期の遅延や新規人財獲得機会の喪失、既存人財の当社グループ外への流出等が発生した場合には、当社グループが提供するITサポートサービスの質の低下により、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(7)自然災害等のリスクについて

地震等の自然災害によって、当社グループの拠点等が壊滅的な損害を受ける可能性があります。当社グループは、災害対応として、お客さまとのファーストコンタクト部門であるコールセンターをエリアコンタクトセンターとして各地域に9ヶ所、コアセンターとして東西2ヶ所に設置し、相互にバックアップが可能な体制を構築しております。また、データセンターに受付システムを設置することで全国どこでも受け付け可能な体制を構築し、運用しております。また、事業継続マネジメントシステムプロジェクトの中で、災害を想定した対策訓練を実施するとともに、大規模自然災害時におけるサービス・製品提供スキームの再確認やこれを担保するコンピュータ用品・保守部品のサプライチェーンの確立と物資輸送手段の確保、社内ITシステム強化を推進しております。これらの対策により当社グループの操業が停止しないように努めておりますが、当社グループの拠点の設備等の損壊や電力・ガス・水道の供給が困難な状況に陥った場合、当社グループの操業に遅延が発生することがあり、お客さまへ提供するITサポートサービスの質の低下さらに拠点等の修復又は代替のために費用を要することとなる可能性があります。

(8)海外事業の展開について

当社グループは、中国での関係子会社設立など、海外事業の拡大を図っております。海外での事業展開は、戦争・テロなどの政治にかかわる諸問題や経済動向、法律又は規制の変更、さらには伝染病の発生等、予期せぬ事象の発生により事業遂行に影響を受ける可能性があります。これらの状況変化が発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

契約会社名	締結年月	契約の名称	相手先	契約内容
NECフィールドディング株式会社 (当社)	昭和48年1月	業務委託契約書	日本電気株式会社	当社が取扱う機器の保守サービス及びその関連業務の当社からの受託に関する基本的事項
NECフィールドディング株式会社 (当社)	平成元年3月	工事請負基本契約書	日本電気株式会社	工事サービスの当社からの受託に関する基本的事項
NECフィールドディング株式会社 (当社)	平成12年8月	技術開示契約書	日本電気株式会社	当社が自主事業を展開するための技術情報の当社からの開示に関する事項
NECフィールドディング株式会社 (当社)	平成13年1月	取扱基本契約書	日本電気株式会社	当社の顧客への販売を目的とした同社の商品の購入に関する基本的事項
NECフィールドディング株式会社 (当社)	平成17年4月	「NEC」標章等使用許諾契約書	日本電気株式会社	「NEC」標章の使用許諾に関する事項

## 6【研究開発活動】

当社グループの事業セグメントである「保守サービス」、「システム展開サービス」、「サブライサービス」及び「運用サポートサービス」とおして、当社は顧客のニーズに沿ったサービスを提案・提供できるよう、さらには顧客満足度のさらなる向上が図れるよう、主に保守サービス技術分野、システム展開サービス技術分野及び運用サポートサービス技術分野で研究開発活動を行っております。

保守サービス技術分野では、顧客のITシステムを安定稼働させるための保守事業領域を主な研究対象とし、効率的で効果的な保守を実現する研究開発及び顧客ニーズに合わせてハードウェア及びソフトウェアを総合したサポート・サービスにつながる研究開発を行っております。

システム展開サービス技術分野及び運用サポートサービス技術分野では、顧客のITシステムの導入から業務運用領域を主な研究対象とし、運用改善や効率化に直結するソリューションを提供するため、最新技術及び最適製品を組み合わせたシステム設計・構築支援サービス及び運用支援・ヘルプデスク・運用監視等のITマネジメントサービスにつながる研究開発を行っております。当連結会計年度の研究開発費の総額は52百万円であります。

具体的な研究開発活動及び成果の主なものは次のとおりであります。

### (1) 保守サービス技術分野

カスタマエンジニアの保守作業を支援するツールや技術の開発を進めています。当連結会計年度は、カスタマエンジニアがお客様先での保守資料の閲覧や保守レポート提出のために携行する端末とその情報提供方法について、従来はノートパソコンが主体だったものを、作業内容や移動手段に合わせてノートパソコンをはじめスマートフォンやタブレット等の端末を選択したときにも作業時に必要な情報を漏れなくかつ効率良く一括提供する研究を行いました。これにより、保守品質の向上と保守作業の効率化を目指しています。

当事業に係る研究開発費は39百万円であります。

### (2) システム展開サービス技術分野及び運用サポートサービス技術分野

- a. システム展開サービスのひとつとして、お客さまのITシステムの付帯設備の導入展開サービスに関する技術の開発を進めています。当連結会計年度は、お客さまがITシステムに必要な空調を設置するにあたり、省エネルギー型の空調をご提供するため、自然換気と機械換気を組み合わせた次世代データセンター向けの空調方式に関する研究を行いました。これにより、省エネルギーのための付帯設備導入展開サービスを提供し、顧客満足度の向上に繋げることを目指しています。

- b. IT機器の運用サポートサービスのひとつとして、お客さまのITシステムの運用管理に関する技術の開発を進めています。当連結会計年度は、センサー技術を活用し、環境負荷および位置情報資産管理方法について研究しました。これにより、お客様により充実した運用サポートサービスを提供し、顧客満足度の向上に繋げることを目指しています。

当事業に係る研究開発費は13百万円であります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1)セグメントの売上高・営業利益分析及び経常利益、当期純利益の分析

「1 業績等の概要 (1)業績」に記載しております。

### (2)財政状態と流動性分析

#### (資産、負債及び純資産の状況)

当連結会計年度末における総資産は1,383億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ20億25百万円増加しました。現金及び現金同等物は49億98百万円増加しました。たな卸資産は生産革新活動による効率化により商品や原材料が減少したことなどにより19億91百万円減少しました。

負債は599億36百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億円増加しました。これは主に、期末仕入高の減少等により支払手形及び買掛金は11億96百万円減少したものの、契約保守サービスの受注増により前受金が14億56百万円増加したことなどによるものです。

純資産は783億67百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億25百万円増加しました。当期純利益35億59百万円を計上したことによる増加と利益配当金21億81百万円を計上したことによる減少により、利益剰余金は586億14百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は56.7%となり、前連結会計年度末に比べ0.2ポイントの増加となりました。

### (3)キャッシュ・フロー分析

「1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フロー」に記載しております。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループは、顧客へのサービスの提供のためのインフラ及びITシステムへの投資を行いました。  
 主な設備投資の内容としては、業務プロセス改革及びIT改革を具現化する新基幹システムへの追加投資のほか、コールセンター、データセンター、並びに技術教育用設備への投資などです。  
 その結果、当連結会計年度における設備投資の総額は、ソフトウェアへの投資16億52百万円、リース契約による投資6億68百万円を含め、27億3百万円となりました。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループの主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業部門名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(単位:百万円)				従業員数 (人)	
			建物及び構築物(建設仮勘定含む)	工具、器具及び備品	リース資産	ソフトウェア(ソフトウェア仮勘定含む)		合計
本社・事業推進グループ (東京都港区他)	全社統括業務 保守サービス、システム展開サービス、 サプライサービス、 運用サポートサービス	統括業務施設・営業業務設備	531	193	457	10,826	12,008	1,382

事業部門名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(単位:百万円)					従業員数 (人)
			建物及び構 築物(建設 仮勘定含 む)	工具、器具 及び備品	リース資産	ソフトウ ェア(ソフト ウェア仮勘 定含む)	合計	
カスタマサポート 本部 (東京都府中市 他)	保守サービス、運用 サポートサービス	営業業務設 備	113	11	49	-	174	319
北ブロック (仙台市若林区 他)	保守サービス、シス テム展開サービス、 サプライサービス、 運用サポートサー ビス	営業業務設 備	50	3	67	-	121	362
首都圏ブロック (横浜市西区他)	保守サービス、シス テム展開サービス、 サプライサービス、 運用サポートサー ビス	営業業務設 備	267	23	41	-	332	1,039
業種ブロック (東京都港区他)	保守サービス、シス テム展開サービス、 サプライサービス、 運用サポートサー ビス	営業業務設 備	276	15	204	-	497	549
中部関西ブロック (大阪市中央区 他)	保守サービス、シス テム展開サービス、 サプライサービス、 運用サポートサー ビス	営業業務設 備	93	10	31	-	135	916
西ブロック (福岡市博多区 他)	保守サービス、シス テム展開サービス、 サプライサービス、 運用サポートサー ビス	営業業務設 備	212	11	20	-	245	500
ロジスティクス本 部 (川崎市川崎区 他)	保守サービス、サブ ライサービス	物流設備	434	41	11	-	487	176
リペア本部 (川崎市川崎区 他)	保守サービス、運用 サポートサービス	リペア設備	55	2	70	-	129	169
合計	-	-	2,036	314	954	10,826	14,131	5,412

(2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(単位:百万円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	リース資産	ソフト ウェア	合計	
エヌデック株式 会社	東京都荒川 区他	システム展開 サービス	本社統括・営業 業務設備	1	3	28	12	45	160

(3) 在外子会社

平成24年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(単位:百万円)					従業 員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	合計	
NEC飛鼎克信 息技術服務(北 京)有限公司	中国北京市 他	保守サービス、 システム展開 サービス、サブ ライサービス、 運用サポート サービス	本社統括・営業 業務設備	0	2	7	0	10	81

(注) 1. 帳簿価額には消費税等は含まれておりません。

2. 上記以外に遊休設備となっている播磨研修センター(土地39,648㎡ 478百万円、建物及び構築物 365百万円等)、投資不動産用地(土地5,501㎡ 115百万円)があります。
3. 注2の遊休設備を除き、現在休止中の主要な設備はありません。
4. 上記以外に、リース契約による主要な賃借設備はありません。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。

平成26年3月までの投資は総額30億75百万円を予定しており、うち重要な設備の投資計画は15億59百万円であり、内訳は次のとおりであります。

#### (1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後 の増加 能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
当社各部門	東京 大阪	全社統括業務 保守サービス、 システム展開 サービス、サブ ライサーサービス、 運用サポート サービス	社内ITシ ステム	700 (-)	-	自己 資金	平成 25.4	平成 26.3	-
当社データ センター	北海道・東 京・名古屋 ・大阪・京 都・金沢・ 福岡ほか	運用サポート サービス	データセン ター	424 (61)	-	自己 資金	平成 25.4	平成 26.3	-
当社各部門	東京	サブライサー ビス	WEB販売 システム	435 (-)	-	自己 資金	平成 25.4	平成 26.3	-

(注) 1. 投資予定金額欄の( )内は、リース投資額で内数です。

2. 上記設備計画による生産能力の増加については、当社の提供するサービスの性格上、生産能力を測定することは困難であるため、記載しておりません。

3. 金額には消費税等は含まれておりません。

#### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	188,560,000
計	188,560,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年6月20日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	54,540,000	54,540,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、 100株であります。
計	54,540,000	54,540,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成16年5月20日 (注)	27,270,000	54,540,000	-	9,670	-	10,161

(注) 株式1株を2株に無償分割

#### (6)【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状 況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その 他		
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	30	33	61	137	8	9,942	10,211	-
所有株式数 (単元)	-	203,159	1,529	205,173	41,400	16	94,078	545,355	4,500
所有株式数 の割合 (%)	-	37.25	0.28	37.62	7.59	0.00	17.26	100	-

(注) 自己株式693株は「個人その他」に6単元及び「単元未満株式の状況」に93株を含めて記載しております。

( 7 ) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
日本電気株式会社	東京都港区芝五丁目7番1号	20,300	37.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(三井住友信託銀行再信託分・ 日本電気株式会社退職給付信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	16,300	29.88
N E C フィールディング従業員持株会	東京都港区三田一丁目4番28号	2,635	4.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,153	2.11
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	888	1.62
MELLON BANK, N.A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS US PENSION (常任代理人 株式会社みずほコーポ レート銀行決済営業部)	ONE BOSTON PLACE BOSTON, MA 02108 (東京都中央区月島四丁目16番13号)	526	0.96
フィールディング取引先持株会	東京都港区三田一丁目4番28号	378	0.69
CREDIT SUISSE SECURITIES (EUROPE) LIMITED PB OMNIBUS CLIENT ACCOUNT (常任代理人 クレディ・スイス証券株 式会社)	ONE CABOT SQUARE LONDON E14 4QJ (東京都港区六本木一丁目6番1号)	352	0.64
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀 行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	261	0.47
第一生命保険株式会社特別勘定年金口	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	237	0.43
計	-	43,034	78.90

(注) 所有株式数、発行済株式総数に対する所有株式数の割合とも表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 54,534,900	545,349	-
単元未満株式	普通株式 4,500	-	-
発行済株式総数	54,540,000	-	-
総株主の議決権	-	545,349	-

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
NECフィールドディング株式会社	東京都港区三田一丁目4番28号	600	-	600	0.00
計	-	600	-	600	0.00

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

当社はストックオプション制度を採用しておりません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	41	39,893
当期間における取得自己株式(注)	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月7日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 ( - )	-	-	-	-
保有自己株式数(注)	693	-	693	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月7日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### 3【配当政策】

当社は急激な事業環境の変化への的確な対応と競争力の強化に努め、企業価値を高めることによって、株主の皆様への利益還元を図っていきたくと考えております。そのために、安定的な経営基盤を確立し、将来の事業拡大のための財務体質強化と内部留保資金の充実を図りつつ、安定的かつ業績に応じた配当を実施することといたしております。

当社は、中間期末日を基準日とする剰余金の配当（以下、中間配当という。）と期末配当の、年2回の剰余金の配当を行なうことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、いずれも取締役会であります。

当社は、「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議により定めることができる」旨を定款に定めております。

当事業年度の利益配当につきましては、1株当たり20円の期末配当とし、中間配当金の1株当たり20円と合わせて年間40円の配当といたしました。この結果、当事業年度の配当性向は68.15%となりました。

内部留保資金の用途につきましては、財務体質の一層の強化と「垂直型事業拡大」、「SMB事業拡大」、「クラウド事業拡大」、「グローバル事業拡大」並びに「新規事業の開拓」に向けた投資を実施する予定です。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年10月26日 取締役会決議	1,090	20
平成25年4月25日 取締役会決議	1,090	20

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	1,355	1,504	1,405	1,087	1,242
最低(円)	700	980	777	882	900

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	957	980	1,046	1,118	1,149	1,242
最低(円)	901	907	956	1,034	1,026	1,138

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役	執行役員 社長	伊藤 行雄	昭和27年 6月12日生	昭和50年4月 日本電気株式会社入社 平成20年4月 同社執行役員常務兼第二コ ンピュータ事業本部長 平成20年10月 同社執行役員常務 平成22年4月 NECディスプレイソ リユーションズ株式会社顧 問 平成22年6月 同社代表取締役執行役員社 長 平成24年4月 当社顧問 平成24年6月 当社代表取締役執行役員社 長(現任)	1	800
取締役	執行役員 常務	松下 礼司	昭和29年 1月3日生	昭和49年4月 当社入社 平成19年4月 当社関西第一支社長 平成21年4月 当社経営企画部長 平成22年4月 当社執行役員 平成23年7月 当社執行役員常務 平成24年6月 当社取締役執行役員常務 (現任)	1	1,500
取締役	執行役員 常務	佐久間 洋	昭和31年 6月19日生	昭和56年4月 日本電気株式会社入社 平成20年4月 同社システム・サービス事 業本部支配人 平成21年4月 同社システム・サービス事 業本部副事業本部長 平成22年4月 同社システム・サービス事 業本部長 平成23年7月 同社サービス事業本部長 平成24年4月 当社執行役員常務 平成24年6月 当社取締役執行役員常務 (現任)	1	300
取締役	執行役員 常務	宮本 高	昭和29年 4月27日生	昭和53年4月 日本電気株式会社入社 平成15年4月 同社コンピュータ企画本部 人事統括マネージャー 平成16年4月 当社総務部長代理 平成16年7月 当社人事部長 平成17年4月 当社執行役員兼総務部長兼 人事部長 平成19年12月 当社執行役員兼人事部長 平成24年6月 当社取締役執行役員兼人事 部長 平成25年4月 当社取締役執行役員常務 (現任)	1	1,700

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	執行役員 常務	百瀬 裕也	昭和31年 11月14日生	昭和56年4月 日本電気株式会社入社 平成17年4月 同社第二コンピュータ事業 本部副事業本部長 平成19年4月 NECハイパフォーマンス ・コンピューティング・ ヨーロッパ社オペレーショ ンズディレクター 平成19年10月 NECドイツラント社バ イスプレジデント 平成20年4月 同社最高経営責任者(CEO) 平成22年4月 NECシステムテクノロ ジー株式会社執行役員 平成24年4月 当社執行役員常務 平成25年6月 当社取締役執行役員常務 (現任)	1	-
取締役	執行役員	小西 国康	昭和29年 11月16日生	昭和52年4月 当社入社 平成17年4月 当社東日本システムサービ ス事業部長 平成21年4月 当社業種サービス事業部長 平成22年4月 当社執行役員 平成25年6月 当社取締役執行役員(現 任)	1	-
取締役	執行役員	松倉 博之	昭和34年 8月25日生	昭和58年4月 日本電気株式会社入社 平成18年7月 同社経理部主計室長 平成21年7月 NECコーポレーション・ オブ・アメリカ社シニアバ イスプレジデント兼最高財 務責任者(CFO) 平成24年8月 当社経理部長 平成25年4月 当社執行役員兼経理部長 平成25年6月 当社取締役執行役員兼経理 部長(現任)	1	-
取締役	-	中江 靖之	昭和33年 1月12日生	昭和56年4月 日本電気株式会社入社 平成20年4月 同社流通・サービスソ リューション事業本部長 平成21年4月 同社流通・サービス業ソ リューション事業本部長 平成22年4月 同社執行役員兼流通・サー ビス業ソリューション事業 本部長 平成22年6月 当社取締役(非常勤)(現 任) 平成24年4月 日本電気株式会社執行役員 (現任)	1	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	-	松下 公哉	昭和31年 10月29日生	昭和55年4月 日本電気株式会社入社 平成20年4月 同社東京支社長 平成21年4月 同社産業ビジネス営業本部 長 平成22年4月 同社南関東支社長 平成24年4月 同社執行役員(現任) 平成25年6月 当社取締役(非常勤)(現 任)	1	-
取締役	-	板澤 幸雄	昭和22年 10月5日生	昭和60年4月 弁護士登録 平成3年4月 永田町法律事務所パート ナー(現任) 平成15年6月 当社監査役(非常勤) 平成23年6月 当社取締役(非常勤)(現 任)	1	1,000
取締役	-	山根 節	昭和24年 1月17日生	昭和49年10月 監査法人サンワ事務所(現 有限責任監査法人トーマ ツ)入所 昭和53年5月 公認会計士資格取得 平成6年4月 慶應義塾大学大学院経営管 理研究科(ビジネス・ス クール)助教授 平成13年4月 慶應義塾大学大学院経営管 理研究科(ビジネス・ス クール)教授(現任) 平成23年6月 当社取締役(非常勤)(現 任)	1	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)	-	村木 和彦	昭和28年 3月24日生	昭和51年4月 日本電気株式会社入社 平成17年7月 同社BIGLOBE事業本 部事業開発統括マネー ジャー 平成17年11月 埼玉日本電気株式会社経営 企画統括部長兼経営企画室 長 平成18年6月 同社取締役経営企画室長 平成22年4月 同社取締役経営企画統括部 長 平成22年6月 当社監査役(現任)	2	1,000
監査役 (常勤)	-	山崎 政輝	昭和29年 9月12日生	昭和51年10月 当社入社 平成19年3月 当社営業管理部長代理 平成21年10月 当社営業管理部長 平成24年6月 当社監査役(現任)	3	7,400
監査役	-	関澤 裕之	昭和35年 7月6日生	昭和58年4月 日本電気株式会社入社 平成19年1月 同社官庁・公共・金融・通 信ソリューション企画本部 経理部長 平成21年4月 同社経理部統括マネー ジャー 平成21年7月 同社経理部主計室長 平成23年6月 当社監査役(非常勤)(現 任) 平成23年7月 日本電気株式会社経理部長 兼経理部計画室長(現任)	4	-
監査役	-	野崎 晃	昭和32年 11月20日生	昭和63年4月 弁護士登録 平成7年4月 長島・野崎法律事務所開設 平成15年3月 野崎法律事務所開設 平成19年6月 株式会社整理回収機構常務 執行役員(現任) 平成23年6月 当社監査役(非常勤)(現 任)	4	-
計						13,600

- (注) 1. 取締役 中江靖之、松下公哉、板澤幸雄及び山根節の4氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 村木和彦、関澤裕之及び野崎晃の3氏は、社外監査役であります。
3. 当社は、取締役 板澤幸雄及び山根節並びに監査役 野崎晃の3氏を、株式会社東京証券取引所の定めに基づき独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
4. 1 取締役の任期は、平成25年6月20日から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
- 2 監査役 村木和彦氏の任期は、平成22年6月21日から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
- 3 監査役 山崎政輝氏の任期は、平成24年6月20日から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
- 4 監査役 関澤裕之及び野崎晃の両氏の任期は、平成23年6月20日から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、企業価値の最大化を図るためにはコーポレート・ガバナンスの強化が重要であると認識しており、経営の透明性及び健全性の確保並びにアカウンタビリティの向上に努めています。

#### 会社の機関の内容

当社は、株主総会のほか、会社法上の機関として、取締役会、監査役会及び会計監査人を設置しています。また、執行役員制度（取締役会で選任された執行役員が業務執行を行い、取締役会及び監査役がこれを監督・監視するという経営管理体制）を導入し、意思決定の一層の迅速化及び取締役会の監督・監視機能の強化を図っています。

#### (a) 取締役・取締役会

当社の取締役は、11名です。取締役会は、毎月1回の定時開催に加え、必要に応じて臨時に開催しています。なお、取締役会において取締役の選任基準を定め、代表取締役を含む取締役若干名で構成する会議において事前審議を行った上で、その候補者を決定することとしています。また、取締役の経営責任の明確化を図るため、取締役の任期を1年にしています。

#### (b) 執行役員・執行役員会議

執行役員は、取締役会において選任しています。なお、代表取締役（1名）は執行役員社長を兼務しています。また、その他の常勤取締役のうち4名が執行役員常務を、2名が執行役員を兼務しています。そのほか、従業員の執行役員が12名います。

なお、取締役会を中心とする意思決定プロセスにおいて適正かつ妥当な経営判断を確保するため、重要な事項については、執行役員会議（執行役員社長以下の全執行役員をメンバーとする会議体）等において事前に審議しています。

#### (c) 監査役・監査役会

当社の監査役は、4名（うち2名は常勤監査役）です。監査役会は、原則として毎月1回、開催しています。監査役は、取締役会に出席し、必要に応じ意見を述べるほか、執行役員会議その他の重要な会議への出席、取締役や執行役員等からの報告の聴取、重要な決裁書類の閲覧等により取締役の職務の執行を監査しています。なお、監査役のうち2名は、親会社において経理業務の経験を有しており、経理・財務に関する知見を有しています。また、当社は、監査役の職務を補助する専任スタッフ（2名）を配置しています。

#### (d) 社外取締役及び社外監査役

当社は、社外の客観的な見地から経営上の助言を受け、コーポレート・ガバナンスを一層強化するため、社外取締役を選任しています。社外取締役は、取締役11名中4名であり、当社のコーポレート・ガバナンスの強化のために適切であると考えています。また、社外監査役は、監査役4名中3名であり、実効性のある監査のために適切であると考えています。

#### (イ) 独立性に関する基準又は方針

当社は、取締役会で制定した取締役選任基準において、社外取締役には、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第436条の2第1項に定める独立役員（以下「独立役員」という。）を1名以上含める旨を定めています。また、監査役会からの提案を受け取締役会で制定した社外監査役の独立性に関する方針において、社外監査役には、独立役員を1名以上含める旨を定めています。

#### (ロ) 社外取締役

中江靖之及び松下公哉の両氏は、当社の事業領域に深い見識を有することから、当社の事業戦略及び事業執行に即した観点からの助言及び監督・監視において、社外取締役としての役割を果たすことができると考えています。

板澤幸雄及び山根節の両氏は、それぞれ、弁護士又は経営学の専門家としての専門的な知見を活かして、一般株主との利益相反が生じるおそれのない客観的な立場からの助言及び監督・監視を行うことにより、社外取締役としての役割を果たすことができると考えています。

なお、板澤幸雄及び山根節の両氏は、独立役員です。

(八) 社外監査役

村木和彦氏は、経理業務の経験と経営者としての経験を有し、これらに基づく高度な見識と専門的な知見により社外監査役としての役割を果たすことができると考えています。関澤裕之氏は、当社の親会社における経理業務の経験と専門的な知見により社外監査役としての役割を果たすことができると考えています。また、野崎晃氏は、弁護士としての専門的な知見を活かして、一般株主との利益相反が生じるおそれのない客観的な立場から当社の業務執行に関する監査を行うことにより、社外監査役としての役割を果たすことができると考えています。

なお、野崎晃氏は、独立役員です。

(二) 当社との利害関係

中江靖之、松下公哉及び関澤裕之の3氏は、当社の親会社である日本電気株式会社の使用人です。同社と当社の間には、「[ 関連当事者情報 ] 当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）1 . 関連当事者との取引」に記載の関係があります。

中江靖之及び松下公哉の両氏は、当社の親会社の子会社であるNECネクサソリューションズ株式会社の社外取締役（非常勤）です。同社と当社の間には、機器の保守・修理及び設置等の取引（当事業年度売上高3,071百万円、仕入高14百万円）があります。

村木和彦氏は、当社の子会社であるNECフィールドディングサポートクルー株式会社の監査役（非常勤）です。同社と当社との間には、派遣労働者の受入等の取引（当事業年度仕入高1,847百万円、売上高1百万円）があります。

なお、社外取締役及び社外監査役が他の会社等の役員若しくは従業員である、又はあった場合における当該他の会社等と当社との当事業年度における取引額が1億円未満のものについては、その記載を省略しています。

(ホ) 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役及び社外監査役（常勤の監査役である村木和彦氏を除く）は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しています。当該契約に基づく賠償責任限度額は、同法第425条第1項に定める金額の合計額としています。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役又は社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

当社と各社外取締役及び各社外監査役との間には、上記の他に利害関係はありません。

(f) 会計監査人

会計監査人には、有限責任 あずさ監査法人を選任しています。同監査法人は、金融商品取引法に基づく監査も行っています。

(g) 内部監査部門、内部統制部門

当社は、内部監査部門として経営監査部を設置しています。内部監査スタッフ（16名）は、法令及び社内規程の遵守状況並びに事業活動全般の妥当性・効率性等について内部監査を実施しています。

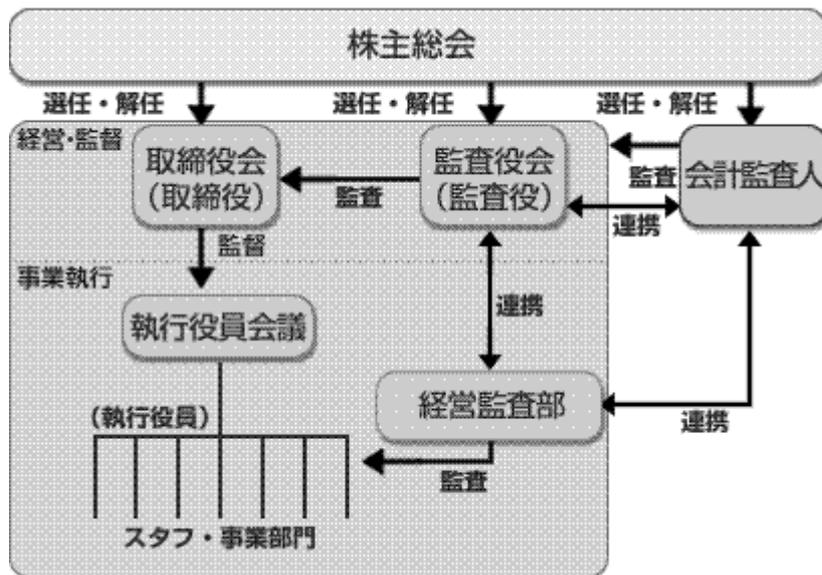
内部監査部門は、監査について、監査役（社外監査役3名を含む）及び会計監査人との間で、適宜、情報交換を行う等、緊密に連携しています。

内部統制部門は、内部統制の状況について、内部監査部門の監査結果を定期的に入手するほか、監査役及び会計監査人との間で、適宜、意見交換、情報交換を行っています。また、非常勤監査役は、これらの状況及び内容について、常勤監査役から情報を入手しています。

(h) 現状の体制を採用する理由

当社は、監査役制度を採用していますが、監査役と会計監査人や内部監査部門の連携、独立役員を含む社外取締役及び社外監査役の選任、取締役会による執行役員業務執行の監督・監視といった体制を整備することによりコーポレート・ガバナンスが有効に機能しており、現状の体制は適切であると考えています。

（注）上記の人員数は提出日（平成25年6月20日）現在のものです。



#### 内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において「内部統制システムの整備に関する基本方針」を決定し、この基本方針に従って当社及び当社グループの業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）を整備、運用するとともに、その整備・運用状況について定期的に評価を行い、改善に努めています。

当社の内部統制システムの概要は以下のとおりです。

##### (a) 企業倫理・コンプライアンス体制

企業倫理及び遵法精神に基づく企業行動の徹底を図るため、当社グループの役員及び従業員が日常の業務遂行において遵守すべき事項を定める「NECフィールドディンググループ行動規範」を制定するとともに、法令遵守を確保するための社内規程やマニュアルを整備し、社内教育等を通じて周知徹底に努めています。

また、CSR担当執行役員を委員長とするコンプライアンス委員会を中心に全社の法令遵守確保のための推進活動を実施しています。なお、当社の従業員や当社グループ会社・資材取引先会社の従業員が当社グループの法令違反や不正行為等を発見した場合、不利益を受けることなく直ちに当社に通報できるよう、内部通報窓口（通報窓口は社外委託先）を設置しています。

また、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力による不当要求に対しては、警察等の外部専門機関と緊密に連携し、法的対応を含め、組織的に毅然とした態度で対応するとともに、これら反社会的勢力とは一切の関係を遮断することとしています。

##### (b) リスク管理体制

当社の事業運営に関して発生しうる諸種のリスク（災害、コンプライアンス、環境、品質、情報セキュリティ、財務その他に関するリスク）の管理に関する基本的事項（基本方針や社内体制など）を定める「リスクマネジメント規程」を制定し、同規程及び関連するその他の社内規程等に基づいて全社のリスク管理を行っています。

また、執行役員社長を委員長とするCSR委員会を設置し、同委員会を中心に社内各部門がリスク管理を実施し、関係スタッフ部門・事業推進部門が、各部門が行うリスク管理を支援しています。なお、経営に重大な影響を与える不測の事態が発生した場合は、直ちに執行役員社長を本部長とする緊急対策本部を設置し、迅速な対応を行うこととしています。

経営判断に関するリスクについては、取締役会、執行役員会議等において十分に議論を尽くし、かつ必要に応じて外部専門家の意見も徴したうえで意思決定することにより対応しています。

##### (c) 情報の保存、管理体制

株主総会、取締役会、執行役員会議等の重要な会議体の議事録、決裁文書、その他業務に関する文書は、法令及び関連する社内規程等に従って、適切に作成、保存、管理することとしています。また、企業秘密、顧客情報、個人情報等の適切な保存、管理のための社内規程を制定し、情報セキュリティの確保を図っています。

##### (d) 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社から子会社に取締役又は監査役を派遣しています。また、遵法体制等の整備に関する指導・支援を行うとともに、内部監査部門が、子会社に対し定期的に監査を行い、必要に応じ、改善の指導・勧告を行っています。

当社グループの財務報告に係る内部統制については、金融商品取引法その他の法令に基づき、その評価、維持、改善等を行うこととしています。

また、当社グループにおける業務の適正化及び効率化の観点から、業務プロセスの改善及び標準化を推進するとともに、情報システムによる一層の統制強化に努めています。

#### 情報開示

当社は、経営の透明性を高めるとともに、市場から適切な企業価値の評価を得るためには、迅速かつ適切で公平な情報開示が重要であると認識しており、法令や金融商品取引所規則に従った情報開示はもちろんのこと、IR活動の強化やホームページの内容の充実等により自発的な情報開示にも努めています。

会計監査の状況

有限責任 あずさ監査法人による当事業年度の会計監査の状況は以下のとおりです。

- ・業務を執行した公認会計士

所属監査法人名	公認会計士の氏名	継続監査年数
有限責任 あずさ監査法人	小林 茂夫	5年
	浜田 康	5年
	構 康二	5年

なお、当社と有限責任 あずさ監査法人又は同監査法人の業務執行社員との間には特別の利害関係はありません。

- ・監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 8名  
 会計士補等 4名  
 その他 8名

役員報酬の内容

- (a) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	131	98	33	11
監査役 (社外監査役を除く。)	12	12	-	2
社外役員	25	25	-	7

- (注) 1. 平成24年6月20日開催の第56期定時株主総会の終結の時をもって退任した取締役4名及び監査役1名の在任中の報酬等の額が含まれています。  
 2. 当社は、平成14年6月18日開催の取締役会において、退職慰労金を廃止しております。  
 3. 当社は、使用人兼務取締役に対し、使用人分の給与を支払っていません。

- (b) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、取締役会において、取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を以下のとおり定めています。

取締役の報酬等は、基本報酬(月額報酬)及び賞与の2種類とし、株主総会で決議された一事業年度の報酬限度額(2億円)の範囲内で、以下のとおり決定する。

(基本報酬)

代表取締役執行役員社長及び社外取締役の基本報酬の額は、取締役会で決定する。執行役員社長以外の執行役員を委嘱された取締役の基本報酬については、毎年4月に、取締役会の授権を受けた代表取締役執行役員社長が、取締役会で定めた執行役員の役員別報酬幅の範囲内で、各取締役の経歴、前期の業務遂行に対する個人業績評価等を勘案して、当該事業年度に係る額を決定する。

(賞与)

代表取締役執行役員社長の賞与の額は、前期の当社グループの業績等を反映した金額とし、社会水準等を勘案の上、取締役会の授権を受けた代表取締役執行役員社長が決定する。執行役員社長以外の執行役員を委嘱された取締役の賞与の額は、前期の当社グループの業績、社会水準、前期の業務遂行に対する個人業績等を勘案の上、取締役会の授権を受けた代表取締役執行役員社長が決定する。なお、社外取締役に対しては賞与を支払わない。

また、監査役の報酬等は、基本報酬（月額報酬）のみとし、株主総会で決議された一事業年度の報酬限度額（6千万円）の範囲内で、常勤監査役、独立役員である非常勤監査役、それ以外の非常勤監査役の区分毎に、監査役の協議により決定しています。

#### 株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
5銘柄 24百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

特定投資株式

該当事項はありません。

当事業年度

特定投資株式

該当事項はありません。

#### 剰余金の配当等の決定機関

当社は、配当等の機動的な決定を可能とするため、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項を取締役会の決議により定めることができる旨を定款に定めています。

#### 取締役の員数

当社は、取締役を11名以内とする旨を定款に定めています。

#### 取締役の選任決議の要件

当社は、取締役の選任決議に関し、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款に定めています。

#### 株主総会の特別決議の要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める特別決議に関し、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めています。

#### 取締役会及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議で免除することができる旨を定款に定めています。

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	128	12	119	-
連結子会社	3	-	4	-
計	131	12	124	-

【その他重要な報酬の内容】

( 前連結会計年度及び当連結会計年度 )

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

( 前連結会計年度 )

当社は、新基幹システムの稼働に伴う業務プロセスの変更にあたり、財務報告に係る内部統制に関する指導および助言業務を、有限責任 あずさ監査法人に委託しております。

( 当連結会計年度 )

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の内容を適切に把握するとともに、会計基準等の変更等についての的確に対応するための体制整備を行っております。また、関係する法令・会計制度の動向を把握するため、監査法人やディスクロージャー専門会社が主催するセミナーに適時参加しております。

1【連結財務諸表等】  
 (1)【連結財務諸表】  
 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,233	11,232
関係会社預け金	1 21,303	1 23,303
受取手形及び売掛金	2 39,951	2 39,690
リース投資資産	11	5
商品及び製品	2,615	2,077
仕掛品	1,432	992
原材料及び貯蔵品	19,399	18,384
繰延税金資産	6,773	6,603
その他	2,180	1,756
貸倒引当金	48	66
流動資産合計	101,852	103,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,812	4,884
減価償却累計額	2,865	2,921
建物及び構築物(純額)	1,946	1,962
機械装置及び運搬具	9	11
減価償却累計額	6	8
機械装置及び運搬具(純額)	3	2
工具、器具及び備品	3,003	2,797
減価償却累計額	2,724	2,483
工具、器具及び備品(純額)	278	313
リース資産	1,679	1,593
減価償却累計額	1,053	643
リース資産(純額)	625	950
建設仮勘定	33	1
有形固定資産合計	2,887	3,230
無形固定資産		
のれん	49	-
ソフトウェア	1,816	10,552
ソフトウェア仮勘定	9,331	296
その他	63	50
無形固定資産合計	11,260	10,898
投資その他の資産		
投資有価証券	869	924
長期貸付金	0	1
前払年金費用	12,737	12,728
繰延税金資産	1,944	2,016
その他	4,895	4,813
貸倒引当金	170	289
投資その他の資産合計	20,277	20,194
固定資産合計	34,425	34,324
資産合計	136,277	138,303

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	20,171	18,974
リース債務	303	360
未払費用	2,744	2,779
未払法人税等	2,367	1,571
前受金	11,119	12,576
賞与引当金	4,855	5,349
役員賞与引当金	17	18
ポイント引当金	15	11
工事損失引当金	1	15
資産除去債務	-	20
その他	1,188	1,596
流動負債合計	42,785	43,273
<b>固定負債</b>		
リース債務	391	640
退職給付引当金	15,746	15,691
資産除去債務	145	140
その他	266	190
固定負債合計	16,550	16,662
負債合計	59,335	59,936
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	9,670	9,670
資本剰余金	10,161	10,161
利益剰余金	57,236	58,614
自己株式	1	1
株主資本合計	77,066	78,444
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	99	64
為替換算調整勘定	25	12
その他の包括利益累計額合計	125	77
純資産合計	76,941	78,367
負債純資産合計	136,277	138,303

## 【連結損益及び包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高	183,481	185,884
売上原価	3, 4 150,541	3, 4 154,226
売上総利益	32,940	31,657
販売費及び一般管理費	1, 2 23,819	1, 2 23,568
営業利益	9,120	8,088
営業外収益		
受取利息及び配当金	60	70
保険事務手数料	46	45
販売報奨金	21	28
保険配当金	148	136
受取保険金	97	1
受取補償金	5	6
その他	44	30
営業外収益合計	424	319
営業外費用		
支払利息	19	20
固定資産廃棄損	26	80
為替差損	10	16
システム移行費用	-	1,560
休止固定資産減価償却費	62	20
その他	4	93
営業外費用合計	123	1,791
経常利益	9,422	6,616
特別損失		
災害による損失	5 80	-
減損損失	6 593	-
電話加入権評価損	24	-
特別損失合計	698	-
税金等調整前当期純利益	8,724	6,616
法人税、住民税及び事業税	3,868	2,979
法人税等調整額	842	77
法人税等合計	4,711	3,057
当期純利益	4,012	3,559

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	35
為替換算調整勘定	0	12
その他の包括利益合計	7, 8 10	7, 8 48
包括利益	4,023	3,607
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,023	3,607
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	9,670	9,670
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	9,670	9,670
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	10,161	10,161
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	10,161	10,161
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	55,408	57,236
会計方針の変更による累積的影響額	2	-
遡及処理後当期首残高	55,405	57,236
当期変動額		
剰余金の配当	2,181	2,181
当期純利益	4,012	3,559
当期変動額合計	1,830	1,377
当期末残高	57,236	58,614
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1	1
当期変動額		
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	1	1
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	75,238	77,066
会計方針の変更による累積的影響額	2	-
遡及処理後当期首残高	75,235	77,066
当期変動額		
剰余金の配当	2,181	2,181
当期純利益	4,012	3,559
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	1,830	1,377
当期末残高	77,066	78,444

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	111	99
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	11	35
当期変動額合計	11	35
当期末残高	99	64
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	24	25
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	12
当期変動額合計	0	12
当期末残高	25	12
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	136	125
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	10	48
当期変動額合計	10	48
当期末残高	125	77
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	75,102	76,941
会計方針の変更による累積的影響額	2	-
遡及処理後当期首残高	75,099	76,941
当期変動額		
剰余金の配当	2,181	2,181
当期純利益	4,012	3,559
自己株式の取得	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	10	48
当期変動額合計	1,841	1,425
当期末残高	76,941	78,367

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	8,724	6,616
減価償却費	2,173	2,727
減損損失	593	-
のれん償却額	197	49
貸倒引当金の増減額（ は減少）	177	137
賞与引当金の増減額（ は減少）	461	493
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	0	0
退職給付引当金の増減額（ は減少）	335	55
ポイント引当金の増減額（ は減少）	7	4
工事損失引当金の増減額（ は減少）	1	13
受取利息及び受取配当金	60	70
支払利息	19	20
有形固定資産廃棄損	25	70
有形固定資産売却損益（ は益）	12	0
無形固定資産廃棄損	2	10
システム移行費用	-	1,560
災害損失	80	-
電話加入権評価損	24	-
売上債権の増減額（ は増加）	477	261
たな卸資産の増減額（ は増加）	637	1,991
前払年金費用の増減額（ は増加）	16	8
その他の資産の増減額（ は増加）	187	425
仕入債務の増減額（ は減少）	2,474	1,311
未払費用の増減額（ は減少）	5	12
未払事業税の増減額（ は減少）	4	18
未払消費税等の増減額（ は減少）	76	154
前受金の増減額（ は減少）	660	1,456
その他の負債の増減額（ は減少）	28	146
その他	-	1
小計	14,050	14,697
利息及び配当金の受取額	57	68
利息の支払額	19	20
システム移行費用の支払額	-	1,420
災害損失の支払額	111	-
法人税等の支払額	3,815	3,756
法人税等の還付額	0	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,161	9,568

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	562	370
有形固定資産の売却による収入	35	0
無形固定資産の取得による支出	4,142	1,668
その他	6	69
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,674	1,969
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	-	0
リース債務の返済による支出	384	412
配当金の支払額	2,181	2,181
その他	18	18
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,548	2,612
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	12
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,937	4,998
現金及び現金同等物の期首残高	26,599	29,536
現金及び現金同等物の期末残高	1 29,536	1 34,535

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 4社

連結子会社の名称

エヌデック(株)

NECフィールドディングサポートクルー(株)

NECフィールドディングシステムテクノロジー(株)

NEC飛鼎克信息技术服務(北京)有限公司

2. 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社はありませんので、該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、NEC飛鼎克信息技术服務(北京)有限公司の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。

ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ たな卸資産

商品及び製品、原材料及び貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び在外連結子会社は定額法を、また、国内連結子会社は定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～47年

機械装置及び運搬具 5年

工具、器具及び備品 2～20年

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(最長8年)に基づいております。

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、当社及び連結子会社は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

当社及び連結子会社は、従業員に対する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

ハ 役員賞与引当金

当社は、役員に対する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

ニ 退職給付引当金

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を退職給付引当金または前払年金費用として計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理することとしております。

ホ ポイント引当金

顧客に付与されたポイントの使用による費用発生に備えるため、当連結会計年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

ヘ 工事損失引当金

採算性の悪化した工事契約に係る将来の損失に備えるため、翌連結会計年度以降に発生することとなる損失見込額を計上しています。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

ロ その他の工事

工事完成基準

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

イ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

ロ 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

5. 金額の表示方法

金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(会計方針の変更)

(売上計上基準の変更)

当社は従来、物品販売のうち、顧客への納品を運送業者に委託する場合は、運送業者に物品を引渡した日をもって売上高を認識する出荷引渡基準を採用していましたが、当連結会計年度より、顧客の検収日をもって売上高を認識する検収基準に変更しました。

この変更は、収益認識の時点に関してより客観性、確実性の高い検収基準に変更し、物品販売に係る契約の実態をより適切に財務諸表に表示することを目的としたものであります。検収基準に基づいて売上高を認識するための当社管理システム上の整備が完了したことから、当連結会計年度より変更することと致しました。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については、適用後の連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前連結会計年度における連結貸借対照表は、受取手形及び売掛金が347百万円減少し、商品及び製品が309百万円増加し、未払金が16百万円減少し、利益剰余金が10百万円減少しております。

また、前連結会計年度の売上高は238百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は15百万円減少しております。

前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書は、税金等調整前当期純利益が15百万円減少し、売上債権の増減額が250百万円増加し、たな卸資産の増減額が221百万円減少し、未払消費税等の増減額が11百万円減少しております。

前連結会計年度の期首の純資産の帳簿価額に反映された会計方針の変更の累積的影響額により、連結株主資本等変動計算書の利益剰余金の遡及適用後の期首残高は2百万円減少しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものであります。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の年度末に係る連結財務諸表から適用します。ただし、退職給付見込額の期間帰属方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。

(3) 概要

影響額については現時点では評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「無形固定資産」の「その他」に含めていた「ソフトウェア」は、資産の総額の100分の5を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「無形固定資産」の「その他」に表示していた1,880百万円は、「ソフトウェア」1,816百万円、「その他」63百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 前連結会計年度及び当連結会計年度の「関係会社預け金」は日本電気㈱グループの資金効率向上をはかるための資金集中管理システムの前連結会計年度末及び当連結会計年度末残高であります。

2 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	360百万円	343百万円
支払手形	119	191

(連結損益及び包括利益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
給料手当	12,114百万円	11,111百万円
賞与引当金繰入額	1,074	1,199
退職給付費用	709	675

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
	52百万円	52百万円

3 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
売上原価	668百万円	942百万円

4 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
	1百万円	6百万円

5 災害による損失は平成23年3月11日に発生した東日本大震災によるもので、主な内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
原状回復費用等	58百万円	-百万円
現地支援費等	23百万円	-百万円

6 減損損失

前連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失(百万円)
播磨研修センター (兵庫県たつの市)	研修施設	建物及び構築物	111
		工具、器具及び備品	0
		土地	481

当社グループは、原則として、事業用資産については事業部を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

前連結会計年度において、当社は遊休状態にあった播磨研修センターに関する固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(593百万円)として特別損失に計上しました。

なお、播磨研修センターの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、建物及び土地については不動産鑑定評価額により評価しております。

7 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	33百万円	54百万円
組替調整額	-	-
計	33	54
為替換算調整勘定：		
当期発生額	0	12
税効果調整前合計	32	67
税効果額	21	19
その他の包括利益合計	10	48

8 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	33百万円	54百万円
税効果額	21	19
税効果調整後	11	35
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	0	12
税効果額	-	-
税効果調整後	0	12
その他の包括利益合計		
税効果調整前	32	67
税効果額	21	19
税効果調整後	10	48

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	54,540,000	-	-	54,540,000
合計	54,540,000	-	-	54,540,000
自己株式				
普通株式	652	-	-	652
合計	652	-	-	652

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月17日 取締役会	普通株式	1,090	20	平成23年3月31日	平成23年5月31日
平成23年10月26日 取締役会	普通株式	1,090	20	平成23年9月30日	平成23年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月15日 取締役会	普通株式	1,090	利益剰余金	20	平成24年3月31日	平成24年5月31日

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	54,540,000	-	-	54,540,000
合計	54,540,000	-	-	54,540,000
自己株式				
普通株式	652	41	-	693
合計	652	41	-	693

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加41株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成24年5月15日 取締役会	普通株式	1,090	20	平成24年3月31日	平成24年5月31日
平成24年10月26日 取締役会	普通株式	1,090	20	平成24年9月30日	平成24年11月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成25年4月25日 取締役会	普通株式	1,090	利益剰余金	20	平成25年3月31日	平成25年5月31日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
現金及び預金勘定	8,233百万円	11,232百万円
関係会社預け金	21,303	23,303
現金及び現金同等物	29,536	34,535

2 重要な非資金取引の内容

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
リース資産	278百万円	615百万円
リース債務	279	618

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として、社内IT設備(工具、器具及び備品)及び車両であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については一時的な余資を預金もしくは安全性の高い金融資産で運用を行うこととしております。資金調達については、策定された資金計画に基づき、所要資金の用途を勘案のうえ、金融機関からの長短借入金、株式の発行、社債の発行等によりこれを行うこととしております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に満期がある其他有価証券(債券)及び取引先企業との業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクや当該企業の業績変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で約5年後であります。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社及び連結子会社は、営業債権について、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社及び連結子会社は、市場価格のある投資有価証券については、定期的に時価を把握し、保有意義を継続的に見直しております。

株式発行体の業績変動リスクの管理

当社及び連結子会社は、市場価格のない投資有価証券については、定期的に発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、当該企業との関係を勘案して保有意義を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社及び連結子会社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を適度な水準に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	8,233	8,233	-
(2) 関係会社預け金	21,303	21,303	-
(3) 受取手形及び売掛金	39,951	39,951	-
(4) 投資有価証券	845	845	-
資産計	70,333	70,333	-
(1) 支払手形及び買掛金	20,171	20,171	-
(2) リース債務（流動負債）	303	313	9
(3) リース債務（固定負債）	391	385	6
負債計	20,866	20,870	3

（注）「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より売上計上基準を変更しており、前連結会計年度の受取手形及び売掛金については遡及適用後の数値となっております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	11,232	11,232	-
(2) 関係会社預け金	23,303	23,303	-
(3) 受取手形及び売掛金	39,690	39,690	-
(4) 投資有価証券	900	900	-
資産計	75,125	75,125	-
(1) 支払手形及び買掛金	18,974	18,974	-
(2) リース債務（流動負債）	360	375	14
(3) リース債務（固定負債）	640	626	13
負債計	19,975	19,976	1

（注）1．金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 関係会社預け金、(3) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

当社が保有する投資有価証券のうち、時価のあるものは満期があるその他有価証券（債券）であり、これらは取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) リース債務（流動負債）、(3) リース債務（固定負債）

これらの時価は、元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額（百万円）

区分	前連結会計年度 （平成24年3月31日）	当連結会計年度 （平成25年3月31日）
非上場株式	24	24

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 （百万円）	1年超 5年以内 （百万円）	5年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
現金及び預金	8,233	-	-	-
関係会社預け金	21,303	-	-	-
受取手形及び売掛金	39,950	0	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期が あるもの 債券	-	-	-	1,000
合計	69,487	0	-	1,000

（注）「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より売上計上基準を変更しており、前連結会計年度の受取手形及び売掛金については遡及適用後の数値となっております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 （百万円）	1年超 5年以内 （百万円）	5年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
現金及び預金	11,232	-	-	-
関係会社預け金	23,303	-	-	-
受取手形及び売掛金	39,689	0	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期が あるもの 債券	-	-	-	1,000
合計	74,225	0	-	1,000

4. リース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 （百万円）	1年超 2年以内 （百万円）	2年超 3年以内 （百万円）	3年超 4年以内 （百万円）	4年超 5年以内 （百万円）	5年超 （百万円）
リース債務	303	204	134	49	2	-

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 （百万円）	1年超 2年以内 （百万円）	2年超 3年以内 （百万円）	3年超 4年以内 （百万円）	4年超 5年以内 （百万円）	5年超 （百万円）
リース債務	360	294	209	88	36	11

(有価証券関係)  
 その他有価証券  
 前連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	845	1,000	154
	(3) その他	-	-	-
	小計	845	1,000	154
	合計	845	1,000	154

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 24百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

その他有価証券

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	900	1,000	99
	(3) その他	-	-	-
	小計	900	1,000	99
	合計	900	1,000	99

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 24百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

（デリバティブ取引関係）

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金基金制度、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合もあります。

当社は、平成19年10月1日付で、退職一時金制度の将来分の一部について、確定給付型の退職年金制度から確定拠出年金制度へ移行しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	52,488	61,235
(2) 年金資産(百万円)(退職給付信託を含む)	43,026	46,613
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(百万円)	9,462	14,622
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	13,524	17,782
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(百万円)	7,072	6,123
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3)+(4)+(5)(百万円)	3,009	2,963
(7) 前払年金費用(百万円)	12,737	12,728
(8) 退職給付引当金(6)-(7)(百万円)	15,746	15,691

(注) 1. 未認識過去勤務債務(債務の減額)は、平成16年1月1日に厚生年金基金の代行部分の返上及び厚生年金基金から企業年金基金への移行の認可を受け、確定給付型の企業年金基金制度へ移行したこと及び退職金制度の改定を行ったことにより発生したもの、並びに平成19年10月1日に従来の確定給付型年金制度を改訂し、また、将来分の一部に確定拠出型年金制度等を導入し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号平成14年1月31日)を適用したことによるものであります。

2. 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
退職給付費用(百万円)	3,628	3,610
(1) 勤務費用(百万円)	2,035	2,021
(2) 利息費用(百万円)	1,265	1,263
(3) 期待運用収益(百万円)	1,044	1,046
(4) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	749	749
(5) 数理計算上の差異の費用処理額 (百万円)	1,493	1,479
(6) その他(百万円)	628	643

(注) 1. 「(6)その他」は、主に確定拠出年金への掛金支払額であります。

2. 過去勤務債務の費用処理額については、「2. 退職給付債務に関する事項」の(注)1に記載の過去勤務債務に係る費用処理額であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 割引率(%)	当社 2.5 子会社 2.5	当社 1.4 子会社 1.7
(2) 期待運用収益率(%)	当社 2.9 子会社 2.0	当社 2.8 子会社 2.0
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
(4) 過去勤務債務の額の処理年数(年)	14~17	14~17
(5) 数理計算上の差異の処理年数(年)	12~18	12~18

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	1,850百万円	2,038百万円
未払事業税	176	99
退職給付引当金	1,441	1,350
たな卸資産評価損	4,379	4,015
減価償却超過額	342	430
その他	998	1,235
繰延税金資産小計	9,188	9,168
評価性引当額	470	548
繰延税金資産合計	8,718	8,620
繰延税金資産の純額	8,718	8,620

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度における会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度の繰延税金資産は遡及適用後の数値となっております。

また、繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	6,773百万円	6,603百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,944	2,016

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.7%	38.0%
(調整)		
地方税の均等割額	2.0	2.5
永久否認額(交際費等)	0.3	0.3
評価性引当金の増減額	2.5	1.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	9.0	-
のれん償却額等	-	4.6
その他	0.5	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	54.0	46.2

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

事務所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は0.6%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
期首残高	129百万円	145百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	13	40
時の経過による調整額	1	1
その他増減額(は減少)	-	26
期末残高	145	161

(賃貸等不動産関係)

当社及び連結子会社は、重要な賃貸等不動産を保有していないため、賃貸等不動産の時価等に関する注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案する複数の事業推進本部を設置し、事業活動を展開しております。

したがって、当社の事業は、事業推進本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「保守サービス」、「システム展開サービス」、「サプライサービス」及び「運用サポートサービス」の4つを報告セグメントとしております。

「保守サービス」は、ITシステムに関する保守・修理サービスを提供しております。

「システム展開サービス」は、ITシステムの導入支援、セットアップ、移設、増設、撤去作業並びにネットワークシステム構築、及び電源・空調・耐震設備・セキュリティシステム等の設置サービスを提供しております。

「サプライサービス」は、コンピュータ用品、OA機器、ソフトウェア等を販売しております。

「運用サポートサービス」は、ITシステムの運用・管理代行等のサポートサービスを提供しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は営業損失の数値であります。

報告セグメントの資産は、たな卸資産の数値であります。

セグメント間の内部収益は市場実勢価格に基づいております。

(売上計上基準の変更)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より売上計上基準を変更しております。

当該会計方針の変更については遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の「報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」となっております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	保守サービス	システム展開サービス	サプライサービス	運用サポートサービス	
売上高					
外部顧客への売上高	93,768	29,089	41,369	19,254	183,481
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	0	6	0	9
計	93,769	29,089	41,376	19,255	183,490
セグメント利益又は損失( )	16,567	1,665	641	1,586	17,129
セグメント資産	19,899	463	2,912	171	23,447

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計
	保守サービス	システム展開サービス	サブライサーサービス	運用サポートサービス	
売上高					
外部顧客への売上高	91,467	30,616	44,646	19,152	185,884
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	0	9	0	10
計	91,467	30,617	44,656	19,153	185,895
セグメント利益又は損失（ ）	15,771	168	327	1,651	17,581
セグメント資産	18,689	458	2,230	76	21,455

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	183,490	185,895
セグメント間取引消去	9	10
連結財務諸表の売上高	183,481	185,884

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	17,129	17,581
全社費用（注）	8,008	9,493
連結財務諸表の営業利益	9,120	8,088

（注）全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社の総務部門・経理部門等の一般管理費部門に係る費用であります。

（単位：百万円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	23,447	21,455
全社資産（注）	112,830	116,848
連結財務諸表の資産合計	136,277	138,303

（注）全社資産は、報告セグメントに帰属しない資産であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント
日本電気株式会社	101,405	保守サービス、システム展開サービス、サプライサービス、運用サポートサービス

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より売上計上基準を変更しており、前連結会計年度の日本電気株式会社に対する売上高は、当該変更について遡及適用後の数値となっております。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント
日本電気株式会社	101,433	保守サービス、システム展開サービス、サプライサービス、運用サポートサービス

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	保守サービス	システム展開サービス	サプライサービス	運用サポートサービス	全社・消去	合計
減損損失	-	-	-	-	593	593

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	保守サービス	システム展開サービス	サプライサービス	運用サポートサービス	合計
当期償却額	95	81	9	9	197

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	保守サービス	システム展開サービス	サプライサービス	運用サポートサービス	合計
当期償却額	23	20	2	2	49

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）及び当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	日本電気(株)	東京都港区	397,199	SI/サービス、ソフトウェア、サーバ、パソコン等のハードウェアを含む「ITソリューション」事業及び携帯電話からブロードバンドネットワーク製品、社会インフラを含む「ネットワークソリューション」事業等	(被所有) 67.11 (29.88)	機器の保守・修理及び設置等の受託、保守部品、サプライ品(消耗品)等の仕入  役員の兼任 3人	機器の保守・設置、サプライ品の販売	101,061	受取手形及び売掛金	22,162
									前受金	3,318
							製品、部材の仕入	28,446	支払手形及び買掛金	5,521
							資金の寄託		預入	415,107
	払出	414,107								
	受取利息	58								

- (注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針については、市場価格を勘案し、当社と関連を有しない会社との取引と同様に決定しております。
2. 関係会社預け金を除く上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
3. 「議決権等の所有(被所有)割合(%)」欄の(29.88%)は、退職給付信託契約上、日本電気株式会社が日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口)に対し、当該株式に属する議決権の行使に関する指図権を有する所有割合で、「67.11%」の内数を示したものであります。
4. 「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より売上計上基準を変更しており、前連結会計年度の日本電気株式会社に対する「機器の保守・設置、サプライ品の販売」並びに「受取手形及び売掛金」の金額については、当該変更を遡及適用した後の数値となっております。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	日本電気(株)	東京都港区	397,199	SI/サービス、ソフトウェア、サーバ、パソコン等のハードウェアを含む「ITソリューション」事業及び携帯電話からブロードバンドネットワーク製品、社会インフラを含む「ネットワークソリューション」事業等	(被所有) 67.11 (29.88)	機器の保守・修理及び設置等の受託、保守部品、サプライ品(消耗品)等の仕入  役員の兼任 3人	機器の保守・設置、サプライ品の販売	101,001	受取手形及び売掛金	20,343
									前受金	4,172
							製品、部材の仕入	29,431	支払手形及び買掛金	4,193
							資金の寄託		預入	416,104
	払出	414,104								
	受取利息	68								

- (注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針については、市場価格を勘案し、当社と関連を有しない会社との取引と同様に決定しております。
2. 関係会社預け金を除く上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
3. 「議決権等の所有(被所有)割合(%)」欄の(29.88%)は、退職給付信託契約上、日本電気株式会社が日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口)に対し、当該株式に属する議決権の行使に関する指図権を有する所有割合で、「67.11%」の内数を示したものであります。

(2) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
同一の親会社を持つ会社	NECインフロンティア(株)	神奈川県川崎市	10,331	企業ネットワークコミュニケーション事業、流通情報システム及び各業種・業態向け端末事業	-	機器の保守・修理及び設置等の受託  役員の兼任1人	機器の保守・修理及び設置等の受託		7,762	受取手形及び売掛金	1,613
同一の親会社を持つ会社	NECファシリティーズ(株)	東京都港区	240	土木建築その他各種工事の設計、請負、監督及び施工 不動産の管理、売買、賃貸借、仲介、分譲、保守及び修理	-	不動産の賃借等	敷金・保証金の差入	敷金・保証金の返還	81 54	差入保証金	1,725

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針については、市場価格を勘案し、当社と関連を有しない会社との取引と同様に決定しております。

2. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)					
同一の親会社を持つ会社	NECインフロンティア(株)	神奈川県川崎市	10,331	企業ネットワークコミュニケーション事業、流通情報システム及び各業種・業態向け端末事業	-	機器の保守・修理及び設置等の受託	機器の保守・修理及び設置等の受託	7,031	受取手形及び売掛金	1,416					
同一の親会社を持つ会社	NECファシリティーズ(株)	東京都港区	240	土木建築その他各種工事の設計、請負、監督及び施工 不動産の管理、売買、賃貸借、仲介、分譲、保守及び修理	-	不動産の賃借等	<table border="1"> <tr> <td>敷金・保証金の差入</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>敷金・保証金の返還</td> <td>85</td> </tr> </table>	敷金・保証金の差入	1	敷金・保証金の返還	85	<table border="1"> <tr> <td>差入保証金</td> <td>1,641</td> </tr> </table>	差入保証金	1,641	1,641
敷金・保証金の差入	1														
敷金・保証金の返還	85														
差入保証金	1,641														

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針については、市場価格を勘案し、当社と関連を有しない会社との取引と同様に決定しております。

2. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

日本電気株式会社（株式会社東京証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,410.76円	1株当たり純資産額	1,436.89円
1株当たり当期純利益金額	73.57円	1株当たり当期純利益金額	65.26円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
当期純利益(百万円)	4,012	3,559
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	4,012	3,559
普通株式の期中平均株式数(株)	54,539,348	54,539,327

3. 「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度における会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については、遡及適用後の連結財務諸表となっております。この結果、遡及適用を行う前と比べて、前連結会計年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額はそれぞれ、0.20円及び0.17円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	303	360	2.1	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	391	640	2.2	平成26年~32年
合計	695	1,000	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末リース債務残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	294	209	88	36

【資産除去債務明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
事務所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等	145	41	26	161

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	40,971	88,641	133,182	185,884
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	1,047	2,987	4,210	6,616
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	385	1,587	2,297	3,559
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	7.06	29.10	42.12	65.26

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.06	22.04	13.02	23.14

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,600	9,569
関係会社預け金	<sup>2</sup> 21,000	<sup>2</sup> 23,000
受取手形	<sup>3</sup> 2,148	<sup>3</sup> 2,135
売掛金	<sup>1</sup> 37,344	<sup>1</sup> 36,636
リース投資資産	11	5
商品及び製品	2,615	2,077
仕掛品	1,350	931
原材料	19,385	18,361
前渡金	-	898
前払費用	1,991	490
繰延税金資産	6,600	6,333
その他	255	613
貸倒引当金	47	63
流動資産合計	99,257	100,989
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,833	4,919
減価償却累計額	2,833	2,886
建物(純額)	1,999	2,032
構築物	14	15
減価償却累計額	12	13
構築物(純額)	1	2
工具、器具及び備品	2,946	2,756
減価償却累計額	2,677	2,442
工具、器具及び備品(純額)	268	314
リース資産	1,629	1,526
減価償却累計額	1,015	593
リース資産(純額)	613	932
建設仮勘定	36	1
有形固定資産合計	2,919	3,283
無形固定資産		
のれん	49	-
商標権	2	1
ソフトウェア	1,804	10,530
ソフトウェア仮勘定	9,331	296
その他	46	37
無形固定資産合計	11,233	10,866

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	869	924
関係会社株式	458	458
関係会社出資金	230	183
破産更生債権等	189	309
長期前払費用	-	75
前払年金費用	12,644	12,626
繰延税金資産	1,813	1,940
差入保証金	3,409	3,269
その他	1,285	970
貸倒引当金	170	289
投資その他の資産合計	20,732	20,470
<b>固定資産合計</b>	<b>34,884</b>	<b>34,619</b>
<b>資産合計</b>	<b>134,142</b>	<b>135,609</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	3 749	3 906
買掛金	1 18,893	1 17,384
リース債務	289	347
未払金	894	1,271
未払費用	2,578	2,604
未払法人税等	2,337	1,533
前受金	1 11,064	1 12,552
預り金	254	261
賞与引当金	4,526	4,991
役員賞与引当金	17	18
ポイント引当金	15	11
工事損失引当金	1	15
資産除去債務	-	20
その他	-	21
流動負債合計	41,625	41,941
<b>固定負債</b>		
リース債務	379	624
退職給付引当金	15,555	15,487
資産除去債務	145	140
その他	266	190
固定負債合計	16,347	16,443
<b>負債合計</b>	<b>57,972</b>	<b>58,385</b>

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	9,670	9,670
資本剰余金		
資本準備金	10,161	10,161
資本剰余金合計	10,161	10,161
利益剰余金		
利益準備金	275	275
その他利益剰余金		
別途積立金	41,948	41,948
繰越利益剰余金	14,215	15,235
利益剰余金合計	56,439	57,458
自己株式	1	1
株主資本合計	76,269	77,288
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	99	64
評価・換算差額等合計	99	64
純資産合計	76,169	77,224
負債純資産合計	134,142	135,609

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>売上高</b>		
プロアクティブ・メンテナンス事業売上高	93,620	91,295
フィールドディング・ソリューション事業売上高	87,119	91,385
売上高合計	<u>1 180,739</u>	<u>1 182,680</u>
<b>売上原価</b>		
プロアクティブ・メンテナンス事業売上原価		
当期製造原価	2 72,740	2 71,496
合計	<u>72,740</u>	<u>71,496</u>
プロアクティブ・メンテナンス事業売上原価	<u>72,740</u>	<u>71,496</u>
フィールドディング・ソリューション事業売上原価		
期首商品及び製品たな卸高	1,341	2,142
当期商品及び製品仕入高	37,690	38,473
当期製造原価	2 39,895	2 42,014
合計	<u>78,927</u>	<u>82,631</u>
他勘定振替高	3 1,075	3 491
期末商品及び製品たな卸高	2,142	1,675
フィールドディング・ソリューション事業売上原価	<u>75,709</u>	<u>80,464</u>
売上原価合計	<u>6, 7 148,449</u>	<u>6, 7 151,960</u>
<b>売上総利益</b>		
プロアクティブ・メンテナンス事業売上総利益	20,880	19,799
フィールドディング・ソリューション事業売上総利益	11,410	10,920
売上総利益合計	<u>32,290</u>	<u>30,720</u>
<b>販売費及び一般管理費</b>	<u>4, 5 23,091</u>	<u>4, 5 22,660</u>
<b>営業利益</b>	<u>9,198</u>	<u>8,060</u>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	1 58	1 68
受取配当金	1	6
保険事務手数料	43	42
販売報奨金	21	28
保険配当金	148	135
受取保険金	58	1
受取補償金	5	6
業務受託料	30	41
その他	35	25
営業外収益合計	<u>401</u>	<u>357</u>

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>営業外費用</b>		
支払利息	18	19
固定資産廃棄損	25	75
関係会社育成支援費用	1 261	1 241
システム移行費用	-	1,560
休止固定資産減価償却費	62	20
その他	40	148
営業外費用合計	408	2,065
経常利益	9,191	6,352
特別損失		
災害による損失	8 80	-
減損損失	9 593	-
電話加入権評価損	24	-
関係会社出資金評価損	-	152
特別損失合計	697	152
税引前当期純利益	8,494	6,200
法人税、住民税及び事業税	3,848	2,879
法人税等調整額	813	119
法人税等合計	4,661	2,999
当期純利益	3,832	3,201

【製造原価明細書】

プロアクティブ・メンテナンス事業製造原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費	1	8,583	11.5	8,829	12.0
労務費		26,030	34.9	26,240	35.8
経費		16,730	22.4	16,162	22.1
外注加工費		23,273	31.2	22,071	30.1
プロアクティブ・メンテ ナンス事業当期製造費用		74,616	100.0	73,303	100.0
期首半製品及び仕掛品た な卸高		-		-	
期首商品及び製品たな卸 高		549		472	
期首仕掛品たな卸高		92		98	
材料から半製品への振替 高		-		-	
合計		75,259		73,875	
期末半製品及び仕掛品た な卸高	-		-		
期末商品及び製品たな卸 高	472		382		
期末仕掛品たな卸高	98		62		
他勘定振替高	1,948		1,933		
プロアクティブ・メンテ ナンス事業当期製造原価	2	72,740		71,496	

(注)

前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)																								
<p>原価計算の方法</p> <p>機種グループ別に分類可能な保守作業については実際総合原価計算を適用しており、それ以外については実際個別原価計算を適用しております。</p> <p>なお、当事業年度は比較的多額(総製造費用の1%超)の原価差額が発生したため、71百万円を仕掛品へ配賦しております。</p> <p>1. 経費の主な内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>設備関係費</td> <td>4,884百万円</td> </tr> <tr> <td>営業関係費</td> <td>2,687</td> </tr> <tr> <td>物流等業務委託料</td> <td>2,104</td> </tr> <tr> <td>通信費</td> <td>500</td> </tr> </table> <p>2. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>販売費及び一般管理費</td> <td>1,972百万円</td> </tr> <tr> <td>前払費用への振替</td> <td>23</td> </tr> </table>	設備関係費	4,884百万円	営業関係費	2,687	物流等業務委託料	2,104	通信費	500	販売費及び一般管理費	1,972百万円	前払費用への振替	23	<p>原価計算の方法</p> <p>機種グループ別に分類可能な保守作業については実際総合原価計算を適用しており、それ以外については実際個別原価計算を適用しております。</p> <p>なお、当事業年度は比較的多額(総製造費用の1%超)の原価差額が発生したため、49百万円を仕掛品へ配賦しております。</p> <p>1. 経費の主な内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>設備関係費</td> <td>4,820百万円</td> </tr> <tr> <td>営業関係費</td> <td>2,551</td> </tr> <tr> <td>物流等業務委託料</td> <td>1,943</td> </tr> <tr> <td>通信費</td> <td>529</td> </tr> </table> <p>2. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>販売費及び一般管理費</td> <td>1,933百万円</td> </tr> <tr> <td>前払費用への振替</td> <td>-</td> </tr> </table>	設備関係費	4,820百万円	営業関係費	2,551	物流等業務委託料	1,943	通信費	529	販売費及び一般管理費	1,933百万円	前払費用への振替	-
設備関係費	4,884百万円																								
営業関係費	2,687																								
物流等業務委託料	2,104																								
通信費	500																								
販売費及び一般管理費	1,972百万円																								
前払費用への振替	23																								
設備関係費	4,820百万円																								
営業関係費	2,551																								
物流等業務委託料	1,943																								
通信費	529																								
販売費及び一般管理費	1,933百万円																								
前払費用への振替	-																								

## フィールドディング・ソリューション事業製造原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費	1	2,962	7.2	2,944	7.0
労務費		11,284	27.5	10,593	25.1
経費		5,892	14.4	6,286	14.9
外注加工費		20,920	50.9	22,428	53.0
フィールドディング・ソ リューション事業当期製 造費用	2	41,060	100.0	42,251	100.0
期首仕掛品たな卸高		908		1,252	
合計		41,969		43,504	
期末仕掛品たな卸高		1,252		868	
他勘定振替高		821		621	
フィールドディング・ソ リューション事業当期製 造原価		39,895		42,014	

(注)

前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
原価計算の方法 製品別(サービス別)の実際個別原価計算を適用してお ります。 1. 経費の主な内訳は次のとおりであります。 設備関係費                    2,315百万円 営業関係費                      110 物流等業務委託料              19 通信費                           895 2. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。 販売費及び一般管理費          878百万円 前払費用への振替              57百万円	原価計算の方法 製品別(サービス別)の実際個別原価計算を適用してお ります。 1. 経費の主な内訳は次のとおりであります。 設備関係費                    1,936百万円 営業関係費                      97 物流等業務委託料              19 通信費                           914 2. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。 販売費及び一般管理費          621百万円 前払費用への振替              - 百万円

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、当事業年度における会計方針の変更は遡及適用され、前事業年度については、遡及適用後の数値となっております。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	9,670	9,670
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	9,670	9,670
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	10,161	10,161
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	10,161	10,161
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	10,161	10,161
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	10,161	10,161
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	275	275
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	275	275
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	41,948	41,948
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	41,948	41,948
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	12,566	14,215
会計方針の変更による累積的影響額	2	-
遡及処理後当期首残高	12,564	14,215
当期変動額		
剰余金の配当	2,181	2,181
当期純利益	3,832	3,201
当期変動額合計	1,651	1,019
当期末残高	14,215	15,235
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	54,790	56,439
会計方針の変更による累積的影響額	2	-
遡及処理後当期首残高	54,788	56,439

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	2,181	2,181
当期純利益	3,832	3,201
当期変動額合計	1,651	1,019
当期末残高	56,439	57,458
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1	1
当期変動額		
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	1	1
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	74,620	76,269
会計方針の変更による累積的影響額	2	-
遡及処理後当期首残高	74,618	76,269
当期変動額		
剰余金の配当	2,181	2,181
当期純利益	3,832	3,201
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	1,651	1,019
当期末残高	76,269	77,288
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>  その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	111	99
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	11	35
当期変動額合計	11	35
当期末残高	99	64
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期首残高	111	99
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	11	35
当期変動額合計	11	35
当期末残高	99	64

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
純資産合計		
当期首残高	74,509	76,169
会計方針の変更による累積的影響額	2	-
遡及処理後当期首残高	74,506	76,169
当期変動額		
剰余金の配当	2,181	2,181
当期純利益	3,832	3,201
自己株式の取得	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	11	35
当期変動額合計	1,662	1,054
当期末残高	76,169	77,224

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品及び製品、原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～47年

構築物 10～30年

工具、器具及び備品 2～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(最長8年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

当社は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を退職給付引当金または前払年金費用として計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(5) ポイント引当金

顧客に付与されたポイントの使用による費用発生に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

(6) 工事損失引当金

採算性の悪化した工事契約に係る将来の損失に備えるため、翌事業年度以降に発生することとなる損失見込額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

- イ 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を採用しております。
- ロ その他の工事  
工事完成基準を採用しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

8. 金額の表示方法

金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(会計方針の変更)

(売上計上基準の変更)

当社は従来、物品販売のうち、顧客への納品を運送業者に委託する場合は、運送業者に物品を引渡した日をもって売上高を認識する出荷引渡基準を採用していましたが、当事業年度より、顧客の検収日をもって売上高を認識する検収基準に変更しました。

この変更は、収益認識の時点に関してより客観性、確実性の高い検収基準に変更し、物品販売に係る契約の実態をより適切に財務諸表に表示することを目的としたものであります。検収基準に基づいて売上高を認識するための当社管理システム上の整備が完了したことから、当事業年度より変更することと致しました。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前事業年度については、適用後の財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前事業年度における貸借対照表は、売掛金が347百万円減少し、商品及び製品が309百万円増加し、未払金が16百万円減少し、繰越利益剰余金が10百万円減少しております。

また、前事業年度の売上高は238百万円減少し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は15百万円減少しております。

前事業年度の期首の純資産の帳簿価額に反映された会計方針の変更の累積的影響額により、株主資本等変動計算書の繰越利益剰余金の遡及適用後の期首残高は2百万円減少しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「業務委託料」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた65百万円は、「業務委託料」30百万円、「その他」35百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に関わる注記

関係会社に対する主な資産・負債は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動資産		
売掛金	22,165百万円	20,347百万円
流動負債		
買掛金	6,920	6,568
前受金	3,318	4,172

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、当事業年度より売上計上基準を変更しており、前事業年度の関係会社に対する売掛金については、当該変更を遡及適用した後の数値となっております。

2 前事業年度及び当事業年度の「関係会社預け金」は日本電気(株)グループの資金効率向上をはかるための資金集中管理システムの前事業年度末及び当事業年度末残高であります。

3 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当期の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	360百万円	343百万円
支払手形	119	191

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
関係会社への売上高	101,073百万円	101,020百万円
受取利息	58	68
関係会社育成支援費用	261	241

(注)「会計方針の変更」に記載のとおり、当事業年度より売上計上基準を変更しており、前事業年度の関係会社に対する売上高については、当該変更を遡及適用した後の数値となっております。

2 当期製造原価には、関係会社に対する外部委託費用や材料等の仕入高が次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
	38,783百万円	40,510百万円

3 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
販売費及び一般管理費	1,075百万円	491百万円

4 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度65%、当事業年度58%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度35%、当事業年度42%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
給料手当	11,776百万円	10,739百万円
賞与引当金繰入額	1,037	1,155
退職給付費用	689	656
減価償却費	966	1,729
賃借料	1,078	932
業務委託料	2,192	2,244

5 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
	52百万円	52百万円

6 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれておりません。

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上原価	667百万円	942百万円

7 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
	1百万円	6百万円

8 災害による損失は平成23年 3月11日に発生した東日本大震災によるもので、主な内訳は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
原状回復費用等	57百万円	- 百万円
現地支援費用等	23	-

9 減損損失

前事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失(百万円)
播磨研修センター (兵庫県たつの市)	研修施設	建物及び構築物	111
		工具、器具及び備品	0
		土地	481

当社は、原則として、事業用資産については事業部を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

前事業年度において、当社は遊休状態にあった播磨研修センターに関する固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(593百万円)として特別損失に計上しました。

なお、播磨研修センターの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、建物及び土地については不動産鑑定評価額により評価しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	652	-	-	652
合計	652	-	-	652

当事業年度(自平成24年 4月 1日 至平成25年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	652	41	-	693
合計	652	41	-	693

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加41株は、単元未満株式の買取による増加であります。

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として、社内IT設備(工具、器具及び備品)及び車両であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度及び前事業年度の貸借対照表計上額は458百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	1,720百万円	1,897百万円
未払事業税	169	89
退職給付引当金	1,304	1,273
たな卸資産評価損	4,379	4,015
減価償却超過額	342	430
その他	905	1,027
繰延税金資産小計	8,822	8,733
評価性引当額	409	460
繰延税金資産合計	8,413	8,273
繰延税金資産の純額	8,413	8,273

(注)「会計方針の変更」に記載のとおり、当事業年度における会計方針の変更は遡及適用され、前事業年度の繰延税金資産は遡及適用後の数値となっております。

また、繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	6,600百万円	6,333百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,813	1,940

2.法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.7%	38.0%
(調整)		
地方税の均等割額	2.0	2.7
永久否認額(交際費等)	1.4	1.7
評価性引当金の増減額	2.2	0.8
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	8.9	-
のれん償却額等	-	4.9
その他	0.3	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	54.9	48.4

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

事務所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は0.6%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

八 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
期首残高	129百万円	145百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	13	40
時の経過による調整額	1	1
その他の増減額(は減少)	-	26
期末残高	145	161

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
1株当たり純資産額	1,396.61円	1,415.94円
1株当たり当期純利益金額	70.27円	58.70円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
当期純利益(百万円)	3,832	3,201
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	3,832	3,201
普通株式の期中平均株式数(株)	54,539,348	54,539,327

3. 「会計方針の変更」に記載のとおり、当事業年度における会計方針の変更は遡及適用され、前事業年度については、遡及適用後の財務諸表となっております。この結果、遡及適用を行う前と比べて、前事業年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額はそれぞれ、0.20円及び0.17円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
		三和コンピュータ(株)	24,000	12
		新興サービス(株)	20,000	10
		(株)神戸コミュニティ・エクステン ジ	50	2
		NECディスプレイソリューション ズ(株)	12	0
		(株)システムプロデュース	300	0
		小計	44,362	24
		計	44,362	24

【債券】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
		マルチコーラブル・円元本確保型・ クーポン日経平均リンク債	1,000	900
		計	1,000	900

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	4,833	337	251	4,919	2,886	252	2,032
構築物	14	0	-	15	13	0	2
工具、器具及び備品	2,946	115	304	2,756	2,442	62	314
リース資産	1,629	704	807	1,526	593	374	932
建設仮勘定	36	380	414	1	-	-	1
有形固定資産計	9,459	1,538	1,777	9,219	5,936	689	3,283
無形固定資産							
のれん	640	-	-	640	640	49	-
商標権	14	-	-	14	12	0	1
ソフトウェア	12,024	10,713	746	21,992	11,461	1,982	10,530
ソフトウェア仮勘定	9,331	1,678	10,713	296	-	-	296
その他	70	0	0	70	32	8	37
無形固定資産計	22,081	12,392	11,460	23,013	12,147	2,040	10,866
長期前払費用	-	100	25	75	-	-	75

- (注) 1. 建物及びリース資産の当期増加額は、主としてデータセンター用設備並びに社内IT設備の取得額であります。
2. ソフトウェア仮勘定の当期増加額は、主として新基幹システムへの追加投資であります。
3. ソフトウェアの当期増加額は、主として新基幹システム稼動に伴うソフトウェア仮勘定からの振替額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	218	237	54	48	352
賞与引当金	4,526	4,991	4,526	-	4,991
役員賞与引当金	17	18	17	-	18
ポイント引当金	15	6	11	-	11
工事損失引当金	1	65	52	-	15

- (注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、貸倒引当金の洗替の結果減少した額であります。

( 2 ) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	25
預金	
当座預金	14
普通預金	9,524
別段預金	5
小計	9,543
合計	9,569

ロ．関係会社預け金

関係会社預け金は、23,000百万円であり、その内容については「2．財務諸表等(1)財務諸表 注記事項(貸借対照表関係)」に記載しております。

ハ．受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
ダイワボウ情報システム(株)	495
(株)アマダ	313
日本事務器(株)	260
日興通信(株)	127
トッパン・フォームズ(株)	87
その他	851
合計	2,135

期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成25年3月	343
4月	584
5月	513
6月	454
7月	139
8月	86
9月	13
合計	2,135

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしており、当期の末日が金融機関の休日であったため、3月末日満期手形が期末残高に含まれております。

二．売掛金  
 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
日本電気(株)	20,343
NECインフロンティア(株)	1,416
NECキャピタルソリューション(株)	934
NECネクサソリューションズ(株)	909
NECパーソナルコンピュータ(株)	752
その他	12,278
合計	36,636

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 365
37,344	181,574	182,283	36,636	83.3	74.4

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ホ．商品及び製品

品名	金額(百万円)
商品	
用品購入製品	1,687
小計	1,687
製品	
メディア自製製品	7
小計	7
半製品	
消耗部品	58
回転部品	324
小計	382
合計	2,077

へ．仕掛品

品名	金額（百万円）
保守サービス仕掛品	62
システム展開サービス仕掛品	271
サブライサービス仕掛品	542
運用サポートサービス仕掛品	54
合計	931

ト．原材料

品名	金額（百万円）
消耗部品	3,865
回転部品	14,336
リユース部品	29
メディア材料	15
工事中材料	115
合計	18,361

チ．繰延税金資産

繰延税金資産は、6,333百万円であり、その内容については「2．財務諸表等 (1)財務諸表 注記事項（税効果会計関係）」に記載しております。

固定資産

前払年金費用

区分	金額（百万円）
退職給付債務	41,320
年金資産	41,895
未認識数理計算上の差異	14,396
未認識過去勤務債務	2,345
合計	12,626

流動負債

イ．支払手形

相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
NEC ネットエスアイ(株)	200
ソフトバンクBB(株)	103
日商エレクトロニクス(株)	77
大和計器(株)	48
愛建電工(株)	39
その他	437
合計	906

期日別内訳

期日別	金額（百万円）
平成25年3月	191
4月	212
5月	225
6月	91
7月	185
合計	906

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしており、当期の末日が金融機関の休日であったため、3月末日満期手形が期末残高に含まれております。

ロ．買掛金

相手先	金額（百万円）
日本電気(株)	4,193
NEC キャピタルソリューション(株)	1,979
エヌデック(株)	1,446
ダイワボウ情報システム(株)	954
NEC ネットエスアイ(株)	471
その他	8,339
合計	17,384

八．前受金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
日本電気(株)	4,172
富士ゼロックスマニュファクチャリング(株)	1,154
NECパーソナルコンピュータ(株)	1,104
NECキャピタルソリューション(株)	508
NECネクサソリューションズ(株)	448
その他	5,164
合計	12,552

固定負債

退職給付引当金

区分	金額(百万円)
退職給付債務	17,425
年金資産	2,432
未認識数理計算上の差異	3,284
未認識過去勤務債務	3,778
合計	15,487

(3)【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.fielding.co.jp">http://www.fielding.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、当社株主は、その有する単元未満株式について、会社法第189条第2項各号に掲げる権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を行使することができません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第56期）（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）平成24年6月20日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年6月20日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第57期第1四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月3日関東財務局長に提出

（第57期第2四半期）（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）平成24年11月5日関東財務局長に提出

（第57期第3四半期）（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）平成25年1月29日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成24年6月22日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2013年6月20日

NECフィールドディング株式会社

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 茂夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 浜田 康 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 構 康二 印

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているNECフィールドディング株式会社の2012年4月1日から2013年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、NECフィールドディング株式会社及び連結子会社の2013年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、NECフィールドディング株式会社の2013年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、NECフィールドディング株式会社が2013年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2013年6月20日

NECフィールドディング株式会社

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 茂夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 浜田 康 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 構 康二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているNECフィールドディング株式会社の2012年4月1日から2013年3月31日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、NECフィールドディング株式会社の2013年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。